

「平成29年度幼児期の教育内容等深化・充実調査研究」事業成果報告書

円滑な幼保小接続の実施を図るカリキュラムの編成等の

効果的な取組に関する研究

～ 相互理解を深め、幼保小の共通実践とするために ～

平成30年3月

鳥取県幼児教育センター

\*\*\*\*\*

本報告書は、文部科学省の「幼児期の教育内容等深化・充実調査研究」の委託費による委託業務として、鳥取県が実施した平成29年度鳥取県幼児期の教育内容等深化・充実調査研究の成果をとりまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、記載、引用等には文部科学省の承認手続が必要です。

\*\*\*\*\*

## はじめに

このたびの幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、小学校以降の学習指導要領の改訂（定）により、幼児期からの教育全体を通して育みたい3つの資質・能力が示されました。幼児期の教育と小学校教育を確実につなぐことにより、子どもたちが自ら豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるための基礎を培う一体となった取組が求められています。

幼保小連携・接続のさらなる充実に向けて、幼児期の教育（幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園等における教育）と児童期の教育（小学校等における教育）が円滑に接続し、体系的な教育が組織的に行われることはとても重要です。本県においても、すべての子供が質の高い幼児期の教育を受けることができるよう、福祉部局と連携を図りながら幼児教育の推進体制を整えているところであり、平成26年度に策定した「鳥取県教育振興基本計画～未来を拓く教育プラン～」においても、「幼児教育の充実」を施策の一つとして掲げ、「発達や学びの連続性をふまえた幼児教育の充実・発展」を重点取組としています。

そこで、文部科学省事業「幼児期の教育内容等深化・充実調査研究」において、本県がこれまで行ってきた取組や県内事例等の収集・分析を行うことにより、幼保小の接続カリキュラムの効果的な取組等について調査研究を行いました。その結果、「幼保小連携・接続に向けた各自治体の効果的な取組」及び「接続カリキュラムの編成における効果的な実践」について明らかにすることができました。

この報告書に掲載されている成果が、幼保小合同研修会等において相互理解に基づいて編成される接続カリキュラムの充実・深化、市町村福祉部局と教育委員会の連携による幼保小連携推進体制のさらなる整備・充実に向けた全国各地の取組に活用されることを願っています。

最後になりましたが、本調査研究にあたり、御尽力、御協力いただきましたみなさまに、深く感謝申し上げます。

平成30年3月

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

円滑な幼保小接続の実施を図るカリキュラムの編成等の効果的な取組に関する研究  
～ 相互理解を深め、幼保小の共通実践とするために ～

本報告書における用語について

本報告書においては、鳥取県の現状を踏まえ、下記のように用語を用います。

- 保育者 幼稚園・認定こども園・保育所等に勤務する幼稚園教諭・保育士・保育教諭等の資格・免許状を有する者のうち、それらの資格・免許状を有することを必須条件とする任につく者を総称して「保育者」と記す。
- 教職員 小学校の教諭及び管理職等をまとめて述べる場合や、小学校区における連携の事例において、小学校の教諭及び幼稚園・保育所・認定こども園等の保育者をまとめて述べる場合、「教職員」の表記を用いる。
- 担任 クラスの担任をする保育者及び小学校教諭。幼稚園や幼保連携型認定こども園では担任教諭と同義であるが、本報告書においては保育所におけるクラス担当者も含むため、「担任」と表記する。
- 教育・保育 幼稚園教諭のみを述べる場合には「教育」、保育教諭のみを述べる場合には「教育及び保育」、保育士のみを述べる場合は、「児童の保育」とし、三者をまとめて述べる場合、鳥取県及び本報告書においては、「教育・保育」と表記することとする。
- 教育 断り書きを付せず「教育」を単独で用いる場合、学校教育法に定められる「教育」を指す。
- 園児 幼稚園・認定こども園・保育所に入園・入所し在籍する子供。受け入れ年齢に係わらず、在籍者を総称して「園児」を用いる。
- 幼児 園児のうち、3歳児クラス、4歳児クラス、5歳児クラスに在籍する者。
- こども/子ども/子供 一般的な意味で用いる場合は「子供」と記す。法律やそれに伴う制度の名称として用いる場合や、既に発刊されている冊子、県内市町村の事例などとの統一を図る場合、「こども」「子ども」の表記を用いる。

報告書内の事例については、各々の自治体の用語をそのまま使用しています。

「平成29年度幼児期の教育内容等深化・充実調査研究」事業成果報告書  
目次

はじめに

第Ⅰ章 研究の概要	1
1 研究の背景	1
(1) 幼児教育と小学校教育の接続の現状	
(2) 鳥取県内の現状	
2 研究の目的	2
3 研究の方法	2
4 研究体制	3
第Ⅱ章 研究の内容	4
1 県外の事例の収集と分析	4
2 鳥取県内の接続カリキュラム等の事例の収集と分析	7
(1) 倉吉市の事例	7
(2) 日野町の事例	13
(3) 鳥取市の事例	19
(4) 若桜町の事例	27
(5) 湯梨浜町の事例	31
第Ⅲ章 研究の成果と今後の課題	34
(1) 研究の成果	34
(2) 今後の課題	36
参考資料	37
調査研究協力者	39
おわりに	

## 第 I 章 研究の概要

### 1 研究の背景

#### (1) 幼児教育と小学校教育の接続の現状

このたびの幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の改訂（定）により、小学校以降の学習指導要領との整合性及び連続性が図られた。また、幼児期からの教育全体を通して育みたい3つの資質・能力を育むことが示され、子供の育ちと学びをつなぐ教育の充実が求められている。

「資質・能力」が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿として示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、保育者が指導を行う際に留意するものであると同時に、小学校教職員にとっても児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうようにする教育活動の手がかりとなるものである。

遊びを中心とした幼児期の教育（幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園等における教育）と、教科等の学習を中心とする小学校教育では、教育内容や指導方法が異なっているが、子供の発達や学びはつながっている。幼児期の育ち・発達や学びを小学校以降の教育につなぐために、幼保小連携・接続のさらなる充実に向けて取組を進めることが必要と考える。子供の発達や学びの連続性を保障するため、幼児期の教育と児童期の教育が円滑に接続し、体系的な教育が組織的に行われることも重要である。

平成28年度幼児教育実態調査（文部科学省初等中等教育局幼児教育課調べ）によると、全国の市町村による幼小接続の状況としては、「年数回の授業、行事、研究会などの交流があるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない。」（ステップ2）と回答した市町村が57.6%と最も多く、次いで「授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている。」（ステップ3）は18.2%と続いている現状である。全国の1,240市町村では、ステップ3と「接続を見通して編成・実施された教育課程について、実施結果を踏まえ、更によいものとなるよう検討が行われている。」（ステップ4）を合わせると24.8%であり、今後さらに円滑な幼保小接続の実施を図るカリキュラム（以下「接続カリキュラム」と示す。）の編成・実施・評価・改善が必要であることが分かる。また、「平成27年度の教育課程の編成にあたり、小学校との情報交換等の連携を行った幼稚園」は、幼稚園全体の59.5%（公立：70.8%、私立52.9%）であり、公私立の関係なく連携を推進し、小学校との情報交換を行うための体制を整える必要がある。

#### (2) 鳥取県内の現状

鳥取県は、人口約56万4千人の全国で一番人口の少ない県である。平成29年5月1日現在、国公立の幼稚園20園、公私立保育所160園、公私立幼保連携型認定こども園26園、認可外保育施設（本県では、「届出保育施設」と表す。）38園、市町村認可である地域型保育事業所25園、国公立小学校126校を有している。平成28年度においては、幼稚園修了者割合が、17.1%と全国で一番低く、反対に保育所修了者数割合が全国8位、66.6%と高くなっている（平成28年度版「100の指標から見た鳥取県」）。女性の社会進出、雇用形態の多様化等の要因もあり、保育所や幼保連携

型認定こども園への入所、届出保育施設や地域型保育事業所へ就園している子供の数が増加する傾向にあるなど、様々な施設形態から小学校へ入学する現状がある。

平成29年度には、県教育委員会と福祉部局との一層の連携を図り、本県における幼児教育の拠点機能を強化するため、「鳥取県幼児教育センター」を開設した。鳥取県幼児教育センターにおける業務の一つとして、幼保小の円滑な接続に向けた効果的な取組等を調査研究することや、市町村行政担当者や園及び小学校等の教職員を対象として、幼保小連携・接続に関する研修会を開催したり、各幼稚園・保育所・認定こども園（以下、3施設をまとめて「園」と示す。）、小学校等への指導助言を行ったりしているところである。

平成28年度に実施した「幼児教育調査」（県教育委員会実施）結果等から県内の幼保小連携・接続の体制や接続カリキュラム編成の現状として以下のことが言える。

- ・園、小学校それぞれが連携推進担当者を分掌の中に位置付けたり、年間連携（交流）計画を作成したりするなど、体制整備が進んできている。
- ・接続カリキュラムについては、平成28年度までに園においては、60.2%、小学校においては、95.4%が編成済みであり、前回調査（平成24年度）と比較して、編成している割合が増えている。
- ・接続カリキュラム編成にあたり、園と小学校の教職員の情報共有、研修会、協議等を行う必要がある。
- ・園において編成した小学校接続を意識したカリキュラム（以下、「アプローチカリキュラム」と示す。）と、園の教育課程・保育課程、指導計画（長期・短期）とのつながりが見えづらい。
- ・小学校において編成したスタートカリキュラムが、担任・1学年のみのものとなっており、第1学年の年間指導計画や小学校全体の教育課程とのつながりが見えづらい。
- ・編成した接続カリキュラムの改善が図られないままの場合もあり、園及び小学校の組織的・計画的なカリキュラム・マネジメントの実施につながっていない。

## 2 研究の目的

本調査研究においては、本県のめざす幼保小連携・接続の3つの柱「組織をつなぐ」「人をつなぐ」「教育をつなぐ」のうち、特に、「教育をつなぐ」ための手段としての接続カリキュラム編成に関する調査・研究を中心に行うこととした。本調査研究では、幼保小接続の実施を図るカリキュラムの編成等に関する課題や今後の取組の方向性を明らかにすることを目的としており、以下の2点で研究を進め、考察することとする。

- 各園・小学校における接続カリキュラムの編成等幼保小連携・接続に向けた自治体の取組
- 接続カリキュラムの編成に関する効果的な取組

## 3 研究の方法

県内及び先進的な取組を行っている地域の接続カリキュラムの収集・分析を以下の内容で行う。

- ・先進地視察による情報収集及び本県の取組との比較検討

- ・「鳥取県幼保小連携カリキュラム」に基づいて編成された実際の各園・小学校における接続カリキュラムの収集・分析による円滑な接続をめざす取組推進のための課題の明確化
- ・市町村の規模、状況に応じた支援体制と特色ある取組の検証

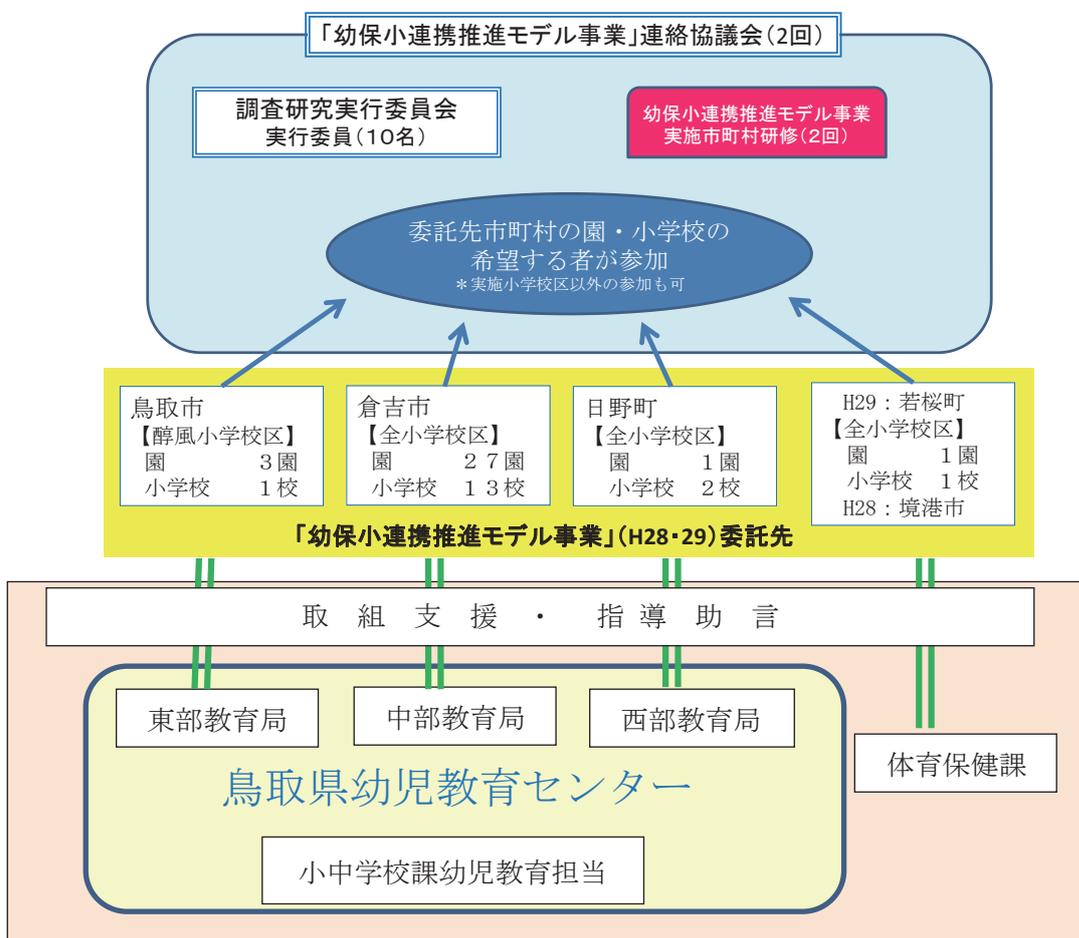
#### 4 研究体制

平成28・29年度「鳥取県幼保小連携推進モデル事業」実施市町村を中心に、それぞれの取組についての実践発表・グループ協議等を行うとともに、アドバイザーによる講義・指導助言等を受ける。

また、本研究における調査研究実行委員会においても、幼保小連携・接続の方向性、実効性のある取組について情報交換しながら、各市町村の規模、実態に応じた特色のある接続カリキュラムの編成等に生かしていくこととする。

事務局としては、鳥取県幼児教育センターが中心となりながら、運動領域を中心とする取組を推進するモデル市町村においては、県教育委員会事務局体育保健課もその取組を支援する。

《組織図及び体制図》



## 第Ⅱ章 研究の内容

### 1 県外の事例の収集と分析

県外の先進的な取組を参考とするため、視察訪問し、情報提供いただいた資料を分析し、幼保小接続のための効果的な取組を自治体ごとに整理して示し、以下の点について記載する。

- ・【取組の特徴】として、自治体の規模、人口、幼保小連携・接続のための取組の経過等について
- ・自治体における幼保小連携・接続のための施策や事業、接続カリキュラム編成のための効果的な取組（◇）

#### （1）草加市教育委員会

##### 【取組の特徴】

埼玉県東南部に位置し、南は東京都足立区に隣接している。人口は、約24.8万人。公立幼稚園の設置はなく、私立幼稚園が約28%、公私立保育所の割合が全施設の約69%、認定こども園の設置数は2園である（インターネット調べ）。

平成24年7月実施の「草加市こども教育の連携に関するアンケート調査」をもとに「目指す草加っ子」（15歳の姿）を定め、0歳から15歳までの一貫した教育、学校段階間の円滑な接続に向けて教育委員会がリードして取組を推進している。

##### ○0歳児から15歳までの育ちと学びの連続性をとらえた計画的な体制づくり

平成27年2月に策定した「目指す『草加っこ』（15歳の姿）をもとに「草加市幼保小中教育指針」を作成。「生活」「人とかかわり」「自ら学ぶ」の3つの柱について、具体的な取組事項を定めることにより、市が一体となって子供を育てていくための指標を作成している。

◇子どもの育ちを支える基本的な指導事項について、15年間の見通しをもって指導のねらいや指導内容の共有を図る。

◇平成24年度実施の保護者や教員対象幼保小の連携に関するアンケート調査を施策の基礎資料とし、保護者を巻き込んだ幼保小連携となっている。

##### ○幼保小接続の制度化及び共通実践するための体制整備

子ども教育連携推進委員会（内、幼保小中連携担当専門部会あり）

- ・草加市幼保小中教育指針、草加市幼保小接続期プログラム作成

子ども教育連絡協議会

研究事業（研究委嘱団体）

◇実践研究発表会、校区别意見交換会、接続期プログラム研修会等、必要に応じて悉皆研修を実施し、周知・徹底を図っている。

##### ○「草加市幼保小接続期プログラム～心豊かに充実した小学校生活に向けて」に具体的な実践をまとめ、配布・情報発信

「就学までに身に付けたい力」を「自ら学び（自ら学ぶ力）」「心豊かに（人とかかわる力）」「たくましく（生活する力）」の3領域で示す。

◇アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムそれぞれの作成のポイントを具体的に示している。

◇「幼児期の教育において小学校の学びの基盤となる経験」を3つの領域ごとに示したり、「幼児期の教育と小学校教育のつながりのイメージ」を見開きのページで掲載し、左側に幼児期（5歳児）の姿や活動、右側に小学生（1年生）の姿を様々な教科・領域等で示したりしている。

◇「スタートカリキュラムハンドブック」に、編成の手順やカリキュラムの例、実施上の留意点等を具体的に示している。

## (2) 栃木県幼児教育センター

### 【取組の特徴】

人口は、約196万人。全施設のうち、公私立幼稚園が約30%、公私立保育所の割合が約54%、認定こども園は約16%である（インターネット調べ）。

栃木県幼児教育センター設立16年目。幼児教育の中核的施設として幼稚園、保育所、こども園、小学校の連携を推進しながら、幼児期から児童期への円滑な接続と幼児期にふさわしい教育環境の整備をめざし、取組を推進している。

### ○幼保小連携推進に向けた施策・各種事業の計画的な整備

「とちぎの幼児教育—とちぎの幼児の健やかな成長のために—」を毎年改訂

「栃木県教育振興基本計画2020」における15の施策の一つに「幼児教育の充実」を掲げている。

#### 【幼児教育における3つの主な取組】

- ①幼児教育と小学校教育の連携の深化・拡充
- ②教育・保育の質の向上
- ③幼児期の子どもを持つ保護者への支援

◇施策・事業の推進に当たっては、県・市町・各園・小学校の役割を明記しているため、各所属で重点的に取り組むべきことが明確である。

#### 栃木県幼小連携推進会議（年2回）

対象者：園・小学校及び家庭教育関係団体の代表者、県幼児教育関係課、市町幼児教育関係課の代表  
内 容：施策・事業について実施状況を確認、課題とその解決について協議

#### 「幼小ジョイントプロジェクト」

県内7ブロック（25市町）を毎年順番で委託。市町保育担当課と教育委員会が連携し、幼小連携（保育・授業参観を中心に）を行う。

### ○幼児教育に関する役割の明確化による幼保小連携・接続の推進

県の役割として、「幼児教育センターを中心とした関係各課室の協力体制の構築」「市町との連携」「関係団体との連携」と示したり、市町や園、小学校それぞれの役割を示したりしている。

◇それぞれの責務を明文化し、方向性を明らかにしていくことが、全県展開をすすめるための切り札となっている。

### ○幼児教育と小学校教育の連携の深化・拡充のための研修の実施

#### 合同研修〔幼小〕

園と小学校教職員（1年担任または、連携推進担当者）が接続期のカリキュラムを持参して協議する。

◇小学校教職員については、悉皆研修として実施するため、小学校教職員の幼保小連携の取組が浸透していく利点がある。

#### 幼小連携推進者養成研修（年間5日）

平成28年度から実施。小学校教諭20名、園保育者20名をペアにして、ジョイントカリキュラムを作成し、「栃木県の幼児教育と小学校教育をつなぐジョイントカリキュラム つなげよう！とちぎのこどものまなび」を作成する。カリキュラム編成を通して、幼小連携の推進者に求められる資質向上を図る。

◇園と小学校の2つの立場で子どもの学びや育ちを多面的に捉えてまとめている。

（テーマの例：創造力・自己表現力を高める・自己肯定観を育てる・思考力・体力づくり等の20項目）

◇テーマを決めて、幼児期後期から小学校入学当初にかけて大切にしたいことを「子どもの姿」「保育者や教師が大切にすること」「大切な経験や活動」の3つの視点で具体的に示している。

◇紹介されている姿をもとに各園・各校でアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムを編成する際の参考にすることができる。

#### 教育・保育アドバイザー事業

県幼児教育専門員（2名・非常勤）と幼児教育センター指導主事が各園・小学校を訪問する。

### (3) 滋賀県教育委員会及び滋賀大学教育学部附属幼稚園

#### 【取組の特徴】

人口は、約141.2万人。全就学前施設のうち、公立幼稚園が約42%、私立幼稚園約6%、公私立保育所の割合が約33%、認定こども園は約18%である（インターネット調べ）。公私立幼稚園が全体の約48%であるが、約半数の10市町において、幼稚園の主管課が首長部局へ移管する動きもある。

滋賀県教育委員会幼小中教育課及び滋賀県総合教育センターを中心に幼稚園、保育所、こども園、小学校の連携を推進しながら、幼児期から児童期への円滑な接続をめざし、事業や研修を推進している。

#### ○「学びの基礎指導の手引き」改訂版を刊行

幼児期から小学校低学年において、「主体的に学ぶ姿勢」「学び方」「学習規範」の3つの要素で「学びの基礎」が確実に身に付くことを目的として刊行。

◇幼・小・中すべての職員に配付。「学びの基礎」の3要素が幼児期と児童期でどのようにつながっていくかを概念図にし、共通のイメージが持てるようにしている。

◇小学校低学年における指導のポイントが「安心・成長・自立」の視点で書かれており、小学校教職員にとっても活用できるものである。

#### ○就学前教育（幼児教育）の質の向上及び円滑な接続に向けた事業の実施

##### 学びに向かう力推進事業

幼児教育と小学校教育の接続に配慮した教育課程の編成、学びに向かう力の育成につながる指導内容や指導方法の工夫改善について実践的研究推進を行い、幼児教育の質向上と小学校低学年における授業改善を図るための事業。主体的・対話的で深い学びの視点を生かした保育・授業改善を進め、学びの基礎の育成を図る。

◇ブロックごとに指定校園を置き、公開保育・授業研究会を開催。園と小学校低学年担当が教育課程の接続について研究協議、円滑な接続に資する指導の重点の共通理解・普及啓発を図る。

◇研修に、小学校低学年担当等各校1名の悉皆参加を位置付ける。全就学前施設の約半数が幼稚園であることから園・小学校双方における幼小連携について協議できる体制が整っている。

##### 保幼小接続研修会

年1回、全県の幼稚園・保育所・認定こども園・小学校教員等が参加する400人規模の研修を実施する。

◇県教委所管の公立幼稚園、公立小学校との連携を出発点とし、所管の異なる保育所、認定こども園、私立幼稚園の参加を継続して呼びかけている。

◇小学校教職員においては、生活科教科主任会を兼ね、夏季休業に開催することにより充実している。

#### ○幼児教育推進体制

##### 幼稚園・保育所間での人事交流の実施（17市町／19市町）

##### 「園長等運営管理協議会」（年2回実施）

公私立幼稚園長、保育所長、認定こども園長等、市町教育委員会幼稚園担当者等約200人

◇園の独自性を大切にしながら、同時期に小学校のスタートを切る子供の支援者という意識を持つ場になっている。

#### ○滋賀大学教育学部附属幼稚園における保育研究

##### 教育課程の工夫・改善

指導改善のキーワード「主体的・対話的で深い学び」について、幼小連携を意識したカリキュラムを編成する。

#### ○国立教育政策研究所教育課程研究指定事業（校種間連携）（H29～30）における取組

学校・園の特性を生かした評価・検証を繰り返し、接続期のカリキュラム作成を目指す。園に小学校から2名の交流人事を行う。

◇今ある組織をどうつなげれば幼小双方にとって課題感、必要感ある連携となるのかを研究する。

## 2 鳥取県内の接続カリキュラム等の事例の収集と分析

県内における各事例から分析した主にカリキュラム編成のための効果的な取組を市町村ごとに整理して示すこととし、以下の点について記載する。

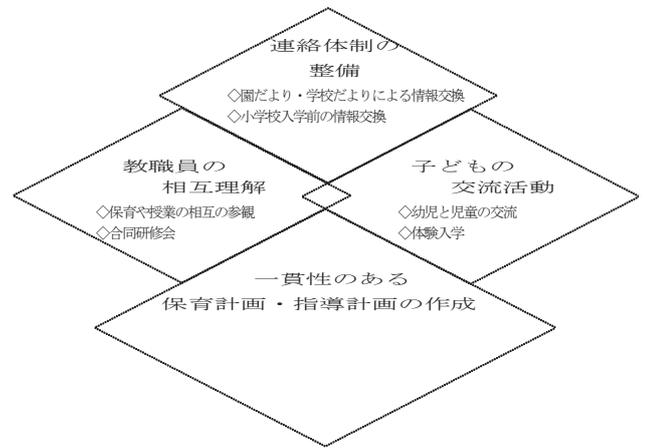
- ・【取組の特徴】として、市町村の規模、人口、幼保小連携・接続のための取組の経過等について
- ・実際の接続カリキュラムを通して、工夫、改善していると考えること（◆）
- ・《成果と課題》として、担当者や教職員の実践発表や聞き取り等をもとに考えられること

また、《成果と課題》については、「組織をつなぐ」「人をつなぐ」「教育をつなぐ」の3つの柱にそって分析し、記載することとする。

### （1）倉吉市の事例

#### 【取組の特徴】

鳥取県中部に位置し、人口は約4.8万人である。公立や園種、校種の枠を越え、教育委員会が、市内全ての園（27）と小学校（13）、保育担当課で組織する「倉吉市幼児教育研究会」を設置したり、交流活動等の連携を小学校区で行ったりするなど、全ての園と小学校が連携できる体制づくりを行っている。1校に多くの園から就学している現状があり、円滑な接続に向けて教育委員会がリードして取組を推進している。



《倉吉市幼児教育研究会》

西郷小学校区	西郷保 ババール園 キンダーガーデン 倉吉東こども園 西郷小
河北小学校区	上井保 ひかり保 あゆみ保 鳥取短期大学附属こども園 河北小
明倫小学校区	倉吉西保 ひまわり保 聖テレジアこども園 明倫小
成徳小学校区	倉吉愛児園 めぐみ保 倉吉幼稚園 成徳小
上灘小学校区	どんぐり保 うつぶき保 上灘小
小鴨小学校区	小鴨保 西倉吉保 小鴨小
上小鴨小学校区	上小鴨保 上小鴨小
北谷小学校区	北谷保 北谷小
高城小学校区	高城保 高城小
社小学校区	社保 向山保 みのり保 社小
灘手小学校区	灘手保 灘手小
上北条小学校区	上北条保 上北条小
関金小学校区	関金保 関金小

**倉吉市連携推進体制**  
 公立保育園・私立保育園  
 私立幼保連携型認定こども園・公立小

《各小学校区の園》

# ○「倉吉のめざす子どもの姿」の作成・提示

どの園からどの小学校に就学しても、幼児期の豊富な体験によって身に付けた学びの基礎が各教科の学びの力につながるようにするため、市で統一した「倉吉のめざす子どもの姿」を作成している。

観点	倉吉のめざす子どもの姿(継続期)											
	4月→5月→6月→	7月→8月→9月→	10月→11月→12月→	1月→2月→3月→	4月→5月→6月→	7月→8月→9月→						
観点	1年生											
生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> <li>○早寝・早起き・朝ご飯をきちんと食べて生活リズムを整える。</li> <li>○洗濯や保育者に頼り頼みをもつて、かいてつに反応したり返事をしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間を意識しながら生活をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間を意識しながら生活をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間を意識しながら生活をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間を意識しながら生活をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間を意識しながら生活をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間を意識しながら生活をする。</li> </ul>					
食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食事のマナー(箸の使い方、姿勢など)に気を付け、友達や保育者と一緒に楽しく食事を食べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業体験、菜園活動等で収穫した作物を調理したりして食べる喜びを味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○好きな食べ物をよく味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○好きな食べ物をよく味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○好きな食べ物をよく味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○好きな食べ物をよく味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○好きな食べ物をよく味わう。</li> </ul>					
運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な遊びを通して、思い切り体を動かして遊ぶことや運動することを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な遊びを通して、思い切り体を動かして遊ぶことや運動することを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な遊びを通して、思い切り体を動かして遊ぶことや運動することを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な遊びを通して、思い切り体を動かして遊ぶことや運動することを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な遊びを通して、思い切り体を動かして遊ぶことや運動することを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な遊びを通して、思い切り体を動かして遊ぶことや運動することを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な遊びを通して、思い切り体を動かして遊ぶことや運動することを楽しむ。</li> </ul>					
安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難訓練等を通して、災害時の危険を知り、合図や指示に従って安全に行動しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全に過ごすためのまわりがわかり、安全に気を付けて生活しようとする。(教室、廊下、遊具)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全に過ごすためのまわりがわかり、安全に気を付けて生活しようとする。(教室、廊下、遊具)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全に過ごすためのまわりがわかり、安全に気を付けて生活しようとする。(教室、廊下、遊具)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全に過ごすためのまわりがわかり、安全に気を付けて生活しようとする。(教室、廊下、遊具)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全に過ごすためのまわりがわかり、安全に気を付けて生活しようとする。(教室、廊下、遊具)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全に過ごすためのまわりがわかり、安全に気を付けて生活しようとする。(教室、廊下、遊具)</li> </ul>					
自己発揮	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年長になったことを友達と喜び合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のことを認めよう経験を通して自信を持って行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のことを認めよう経験を通して自信を持って行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のことを認めよう経験を通して自信を持って行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のことを認めよう経験を通して自信を持って行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のことを認めよう経験を通して自信を持って行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のことを認めよう経験を通して自信を持って行動する。</li> </ul>					
協同性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遊びがより面白くなるように友だちと意見を出し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。</li> </ul>					
きまり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○きまりの大切さに気が付き、守ろうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スクリーンなどの手がかりを見ながら、自分で判断して行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スクリーンなどの手がかりを見ながら、自分で判断して行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スクリーンなどの手がかりを見ながら、自分で判断して行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スクリーンなどの手がかりを見ながら、自分で判断して行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スクリーンなどの手がかりを見ながら、自分で判断して行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スクリーンなどの手がかりを見ながら、自分で判断して行動する。</li> </ul>					
地域愛	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の自然や行事に親しむ。</li> </ul>											
意欲	<ul style="list-style-type: none"> <li>○五感を働かせ、興味を持ってさまざまな遊びに触れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集中し、根気強く取り組み、試行錯誤し、夢中になって遊ぶ。(比べる、分ける、関係づける)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集中し、根気強く取り組み、試行錯誤し、夢中になって遊ぶ。(比べる、分ける、関係づける)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集中し、根気強く取り組み、試行錯誤し、夢中になって遊ぶ。(比べる、分ける、関係づける)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集中し、根気強く取り組み、試行錯誤し、夢中になって遊ぶ。(比べる、分ける、関係づける)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集中し、根気強く取り組み、試行錯誤し、夢中になって遊ぶ。(比べる、分ける、関係づける)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集中し、根気強く取り組み、試行錯誤し、夢中になって遊ぶ。(比べる、分ける、関係づける)</li> </ul>					
探究心	<ul style="list-style-type: none"> <li>○絵本や物語に親しみ興味を持って聞き、イメージを豊かにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活の中から数、文字、形、重、記号等に好奇心をもち、遊びの中に取り入れて楽しむ。(比べる、分ける、関係づける)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活の中から数、文字、形、重、記号等に好奇心をもち、遊びの中に取り入れて楽しむ。(比べる、分ける、関係づける)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活の中から数、文字、形、重、記号等に好奇心をもち、遊びの中に取り入れて楽しむ。(比べる、分ける、関係づける)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活の中から数、文字、形、重、記号等に好奇心をもち、遊びの中に取り入れて楽しむ。(比べる、分ける、関係づける)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活の中から数、文字、形、重、記号等に好奇心をもち、遊びの中に取り入れて楽しむ。(比べる、分ける、関係づける)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活の中から数、文字、形、重、記号等に好奇心をもち、遊びの中に取り入れて楽しむ。(比べる、分ける、関係づける)</li> </ul>					
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体験したことや感じたこと、おもしろいこと、嬉しかったこと、感動したこと、歌を歌ったり演劇したり、音楽に合わせて体を動かしたりして表現活動を楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○思ったことや感じたことを絵や文字を使い表現することを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○思ったことや感じたことを絵や文字を使い表現することを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○思ったことや感じたことを絵や文字を使い表現することを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○思ったことや感じたことを絵や文字を使い表現することを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○思ったことや感じたことを絵や文字を使い表現することを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○思ったことや感じたことを絵や文字を使い表現することを楽しむ。</li> </ul>					
学習規律		<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の持ち物は、自分で準備・片付けをする。</li> </ul>										

- ◆ 5歳児と1年生前期の子供の成長する姿を「生活する力」「人と関わる力」「学びに向かう力」の3つの観点、「生活習慣」「自己発揮」「意欲」等の視点で「めざす子どもの姿」を明らかにしており、子供の姿がつながるものとなっている。
- ◆ 3ヶ月を単位期間として作成しており、見通しをもった教育活動を行うことができる。
- ◆ A3版一枚にまとめており、見やすく活用しやすいものとなっている。
- ◆ 市内の全園・全小学校に配布し、市教育委員会がリードして園と小学校の育ちと学びをつなぐ際に活用されている。
- ◆ 子どもの育ちや学びの姿を捉えるための共通の手がかりとして活用している。

### ○取組シートの作成・共通実践

小学校区ごとに課題や「めざす子ども像」、共通して取り組む事項を明確にして作成している。

平成28年度小中学校区の取り組みについて		
1 構成 (高城小学校区) ◎連絡担当者		
◎ 高城小学校 高城保育園		
2 めざす子どもの像		
○ 主体的に行動する子ども ○ 自分の思いを表現できる子ども		
3 共通の取り組み		
	取り組み	成果と課題
子どもへの取組	<b>自ら考え、行動する場の設定と機会を作る</b> ○小学生と年長組の交流会を持ち、園児に喜んでもらうにはどうしたらよいかを考えて、小学生の進行により進める。 ○縦割り活動を行事や全体活動で意図的に仕組み、年長としての役割と行動を数多く経験させる。	◎年下の子のことを考えたり、リードしていく力が少しずつ育ってきた。 ○自ら考え、主体的に行動するのではなく、指示を待ったり、自信が持てなかったりする姿がある。 ○職員の必要以上の声かけやかかわりがあったので、子どもたちの姿を見守りながら必要に応じたかかわりをしていく。
子どもへの取組	<b>友だちの個性や気持ちを認め合い、尊重する関係づくりを図る</b> ○少人数の長所を生かし、すべての子に活躍の場を設けて、認め合うとともに、役立ち感を持たせるような活動を仕掛ける。 ○日常の遊びや活動を通して、一人一人の意見や考えを認め合う人間関係づくりを進め、失敗を恐れなくて思いを表現できるこの育成を図る。	◎少人数でもあり一人ひとりに活躍の場を設けることができたことで、友だちの良さに気付いたり、役立ち感へとつなげることができた。 ○自分の思いをなかなか表現できない子どもの姿もある。
職員の取り組み	<b>子どもの姿を知る</b> ○保育参観、学習参観、児童と園児との交流活動を通して、実態を把握し、子どもの姿、家庭の実態や支援等について情報交換する。 ○月例の連絡会(含 児童センター)において、子どもの様子を報告し合い、共通理解とめざす子どもの姿の共有を図る。 ○朝の読書、読み聞かせを継続して取り組む。	◎毎月の連絡会や保育参観等により、子どもたちの成長の姿、現在の様子等の共通理解ができた。 ◎保育園、小学校、児童センターが子どもの姿を共通理解していることで、来年度への引き継ぎがスムーズにできた。 ○めざす子ども像をしっかりと意識した継続した取り組みをしていく。

- ◆ 小学校区の子供の実態や課題の共有後、小学校区の「めざす子どもの像」を明確にしている。
- ◆ めざす子供の姿の実現に向けて重点取組を「子ども」「教職員」の視点で協議・決定しており、小学校区での共通実践へとつながる分かりやすいものとなっている。
- ◆ 年度末には小学校区の取組の成果と課題についてまとめるとともに、全小学校区の取組状況や今後の取組について共通理解するなど、次年度に生かすものとなっている。



- ◆校区の「育てたい子供の姿」につながる計画となっている。
- ◆園の数や取組の重点等に合わせて活用しやすいものへ工夫・改善を行っている。
- ◆小学校と校区全ての園を並べ、生活科の学習の年間計画と園の年間計画を一覧にしているため、幼保・小の教育内容のつながりが分かりやすい。また、園同士の交流にもつながっている。
- ◆園児と児童の交流活動や教職員の連携が年間計画に位置付けられ、見通しをもった継続的な活動を行うことにつながっている。

### ○交流実施計画の様式の統一

園児と児童の交流活動を実施するにあたり、互恵性のあるものとするため、保育者と小学校教職員の事前の話し合いを重視し、「交流実施計画」を作成している。

平成29年度 交流実施計画 「小学校で運動遊び交流をしよう」																							
1	日 時	平成29年11月9日(木)	8時50分～9時50分																				
2	場 所	上北条小学校校庭(雨の場合:体育館)																					
3	参加者	上北条小学校5年生 24名、上北条保育園年長児 11名																					
4	ねらい	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年長児</th> <th>5年生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○小学校にどんな遊具があるかを知り、5年生と一緒に運動遊びをすることで、入学への期待を持つ。</td> <td>○校庭の遊具の遊び方を園児にわかりやすく紹介する。</td> </tr> <tr> <td>○小学生と楽しく運動遊びをすることを通して、広いグラウンド(体育館)で力いっぱい体を動かすことを楽しむ。</td> <td>○園児と楽しく運動遊びをすることを通して、つながりを深めていく。</td> </tr> </tbody> </table>	年長児	5年生	○小学校にどんな遊具があるかを知り、5年生と一緒に運動遊びをすることで、入学への期待を持つ。	○校庭の遊具の遊び方を園児にわかりやすく紹介する。	○小学生と楽しく運動遊びをすることを通して、広いグラウンド(体育館)で力いっぱい体を動かすことを楽しむ。	○園児と楽しく運動遊びをすることを通して、つながりを深めていく。															
年長児	5年生																						
○小学校にどんな遊具があるかを知り、5年生と一緒に運動遊びをすることで、入学への期待を持つ。	○校庭の遊具の遊び方を園児にわかりやすく紹介する。																						
○小学生と楽しく運動遊びをすることを通して、広いグラウンド(体育館)で力いっぱい体を動かすことを楽しむ。	○園児と楽しく運動遊びをすることを通して、つながりを深めていく。																						
5	評価	年長児 校庭の遊具の遊び方を知り、5年生と一緒に運動遊びを楽しんでいる。(行動・発言) 5年生 園児に校庭の遊具の遊び方をわかりやすく伝え、一緒に運動遊びを楽しんでいる。(行動・発言)																					
6	活動の流れ(雨の日:体育館)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>活動</th> <th>年長児に対する配慮・支援等</th> <th>5年生に対する配慮・支援等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8:50</td> <td>1、あいさつをする。  2、準備運動(エビカニクス)をする。</td> <td>○保育園で踊っているエビカニクスを準備運動として取り入れることで、緊張をほぐし意欲的に参加できるようにする。</td> <td>○一緒に楽しくできるように事前に曲を聞いておく。</td> </tr> <tr> <td>8:55</td> <td>3、運動遊びの説明をする(5年生)。</td> <td>○どんな運動遊びをどこでするか、わかりやすくするために地図を使って説明する。</td> <td>○準備した地図を使って、ゆっくりと丁寧に話すように伝える。</td> </tr> <tr> <td>9:05</td> <td>4、体育館で遊ぶ。 ○レーザービーム ・長縄に引っかからないように、跳んだりしゃがんだりする。</td> <td>○引っかかってこけてしまうことがあることを事前に伝えておく。</td> <td>○園児の思いを聞きながら、声かけをしたり手をつないだりする。</td> </tr> <tr> <td>9:15</td> <td>○かんたんサスケ ・体育館を使ったアスレチックコースをまわる。(1周目はルートに従って進むが、2周目は好きな所に行って遊ぶ) ① フラフープを並べてケンケンバをする。</td> <td>○保育園で取り組んでいるマット運動やなわとびを取り入れることで、自信を持って遊ぶことができるようにする。 ○ペアの5年生に自分の思いを伝えながら、一緒に遊びを楽しめるように、必要に応じて声かけをする。</td> <td>○園児の思いや願いを聞いたり確認したりしながら一緒にまわる。 ○園児が不安そうなときは、一緒にしてみたり、違う遊びのところに誘ったりするように声かけをする。</td> </tr> </tbody> </table>		時間	活動	年長児に対する配慮・支援等	5年生に対する配慮・支援等	8:50	1、あいさつをする。  2、準備運動(エビカニクス)をする。	○保育園で踊っているエビカニクスを準備運動として取り入れることで、緊張をほぐし意欲的に参加できるようにする。	○一緒に楽しくできるように事前に曲を聞いておく。	8:55	3、運動遊びの説明をする(5年生)。	○どんな運動遊びをどこでするか、わかりやすくするために地図を使って説明する。	○準備した地図を使って、ゆっくりと丁寧に話すように伝える。	9:05	4、体育館で遊ぶ。 ○レーザービーム ・長縄に引っかからないように、跳んだりしゃがんだりする。	○引っかかってこけてしまうことがあることを事前に伝えておく。	○園児の思いを聞きながら、声かけをしたり手をつないだりする。	9:15	○かんたんサスケ ・体育館を使ったアスレチックコースをまわる。(1周目はルートに従って進むが、2周目は好きな所に行って遊ぶ) ① フラフープを並べてケンケンバをする。	○保育園で取り組んでいるマット運動やなわとびを取り入れることで、自信を持って遊ぶことができるようにする。 ○ペアの5年生に自分の思いを伝えながら、一緒に遊びを楽しめるように、必要に応じて声かけをする。	○園児の思いや願いを聞いたり確認したりしながら一緒にまわる。 ○園児が不安そうなときは、一緒にしてみたり、違う遊びのところに誘ったりするように声かけをする。
時間	活動	年長児に対する配慮・支援等	5年生に対する配慮・支援等																				
8:50	1、あいさつをする。  2、準備運動(エビカニクス)をする。	○保育園で踊っているエビカニクスを準備運動として取り入れることで、緊張をほぐし意欲的に参加できるようにする。	○一緒に楽しくできるように事前に曲を聞いておく。																				
8:55	3、運動遊びの説明をする(5年生)。	○どんな運動遊びをどこでするか、わかりやすくするために地図を使って説明する。	○準備した地図を使って、ゆっくりと丁寧に話すように伝える。																				
9:05	4、体育館で遊ぶ。 ○レーザービーム ・長縄に引っかからないように、跳んだりしゃがんだりする。	○引っかかってこけてしまうことがあることを事前に伝えておく。	○園児の思いを聞きながら、声かけをしたり手をつないだりする。																				
9:15	○かんたんサスケ ・体育館を使ったアスレチックコースをまわる。(1周目はルートに従って進むが、2周目は好きな所に行って遊ぶ) ① フラフープを並べてケンケンバをする。	○保育園で取り組んでいるマット運動やなわとびを取り入れることで、自信を持って遊ぶことができるようにする。 ○ペアの5年生に自分の思いを伝えながら、一緒に遊びを楽しめるように、必要に応じて声かけをする。	○園児の思いや願いを聞いたり確認したりしながら一緒にまわる。 ○園児が不安そうなときは、一緒にしてみたり、違う遊びのところに誘ったりするように声かけをする。																				

- ◆園児・小学生それぞれのねらいを明確にして活動を行っている。
- ◆「ねらい」を踏まえ、「評価」「配慮や支援」についてもそれぞれ具体的に記載している。
- ◆記載項目を協議・決定しており、工夫したものとなっている。
- ◆それぞれの発達段階を踏まえて、教職員の役割を明確にした活動案を作成している。
- ◆交流実施計画作成を通して、園と小学校の教職員が事前の打合せや協議を行うことが、相互理解につながっている。

## 《成果と課題》

### 成果

#### 組織をつなぐ 人をつなぐ

- ・教育委員会が主体となった取組により、公・私立保育所、認定こども園の区別なく、全園と全小学校が連携できる体制が整った。
- ・「倉吉市のめざす子どもの姿」「年間連携推進計画」などの様式の統一が、市全体で幼保小連携を推進する土台となっている。
- ・小学校区での園長、校長の連携が進み、日常的に情報交換をしたり、保育や授業を参観し合ったりする機会が増えた。また、小学校区の子供の実態や課題に合わせた共通実践が行われたことにより、家庭や地域を巻き込んだ実践に広がるなど、校区の特色ある取組となっている。

#### 教育をつなぐ

- ・「年間連携推進計画」により、園での活動や小学校の学習について相互理解したり、教育のつながりを意識した交流活動を行ったりすることにつながっている。

### 課題

- ・教育委員会のリードにより、市全体としての幼保小連携・接続の取組が進んだといえる。さらに教育内容をつながりのあるものとするための取組が必要と考える。今後は、この基盤を生かして、円滑な幼保小接続に向けて、小学校区の園と小学校がつながりのあるカリキュラムの編成および実施、評価、改善の取組を実施することが重要である。

## (2) 日野町の事例

### 【取組の特徴】

鳥取県西部に位置し、人口は約0.31万人である。

平成23年4月、幼児期の育ちを小学校へよりなめらかにつなぐための体制づくりとして、保育所の所管を町長部局（健康福祉課）から、教育委員会部局へ移管、同時に「日野町子ども15年プラン」を制定し、0歳から15歳までの一貫した教育に取り組んでおり、町教育委員会が、町内の園（1）と小学校（2）、中学校（1）を所管している。保小連携については保小中一貫教育の一つとして「日野町教育大綱」「日野町教育振興基本計画」に位置付け、事業を推進している。

### ○「日野町学びの基礎を育むプログラム」による一貫して育てたい力の共有

町の子供に付けたい力を明確にし、0歳から15歳までの育ちを見通した一貫した教育を行う体制を整えている。

「日野町学びの基礎を育むプログラム」(抜粋)	
保育所、小学校、中学校と一貫した取組を保護者と連携しながら実践し、学びの基礎となる基本的な生活習慣の定着、コミュニケーション力、自尊感情、セルフコントロール力を育てます。	
1 基本的な生活習慣の定着	・心身ともに健康な生活を送るためのもとなる生活習慣 ・特に食事、睡眠、整理・整頓、あいさつ・返事を視点とする。
2 コミュニケーション力	・他者の話を聞き、気持ちを理解し、情報を収集したり発信したりする力 ・特に「聞く、話す、関わる」の3つを視点とする。
3 自尊感情	・自分を否定するのではなく肯定的に認め、自分らしさに自信を持ち、自分を価値あるものとして思えるようになること ・特に意欲・自己実現、自己肯定感を視点とする。
4 セルフコントロール力	・自分の感情や欲望をコントロールする力 ・特に自己抑制、根気強さを視点とする。

- ◆ 4つの育てたい力を示し、それぞれの重点を明確にしているため、分かりやすいものとなっている。
- ◆ 町内の全教職員に周知され、それぞれの立場での実践につながるものとなっている。
- ◆ 教育委員会が主体となった町の組織体制が確立し、活動計画により推進体制が軌道に乗っている。（日野町保小中一貫教育推進委員会、保小・小小連携推進部会）

### 平成29年度 保小・小小連携推進部会活動計画

#### 1 本年度の取組

	取組内容	教育振興基本計画 取組方策・内容	年度末到達目標（値）
(1)	保小交流会、保小連絡会、保育参加の実施と改善	2-6 (4)	目的を明確にし、年3回（各小3、保6）実施
(2)	小小連携事業（交流会等）の実施及び改善	2-6 (5)	各校の実態を考慮して内容を検討し、各学年で実施
(3)	小小合同授業研究会の実施	2-7 (1) (2)	年2回実施 9/29、10/20
(4)	保小接続カリキュラムの活用と見直し	2-6 (4)	実践記録を追加するなど改訂版の発行（2月末）

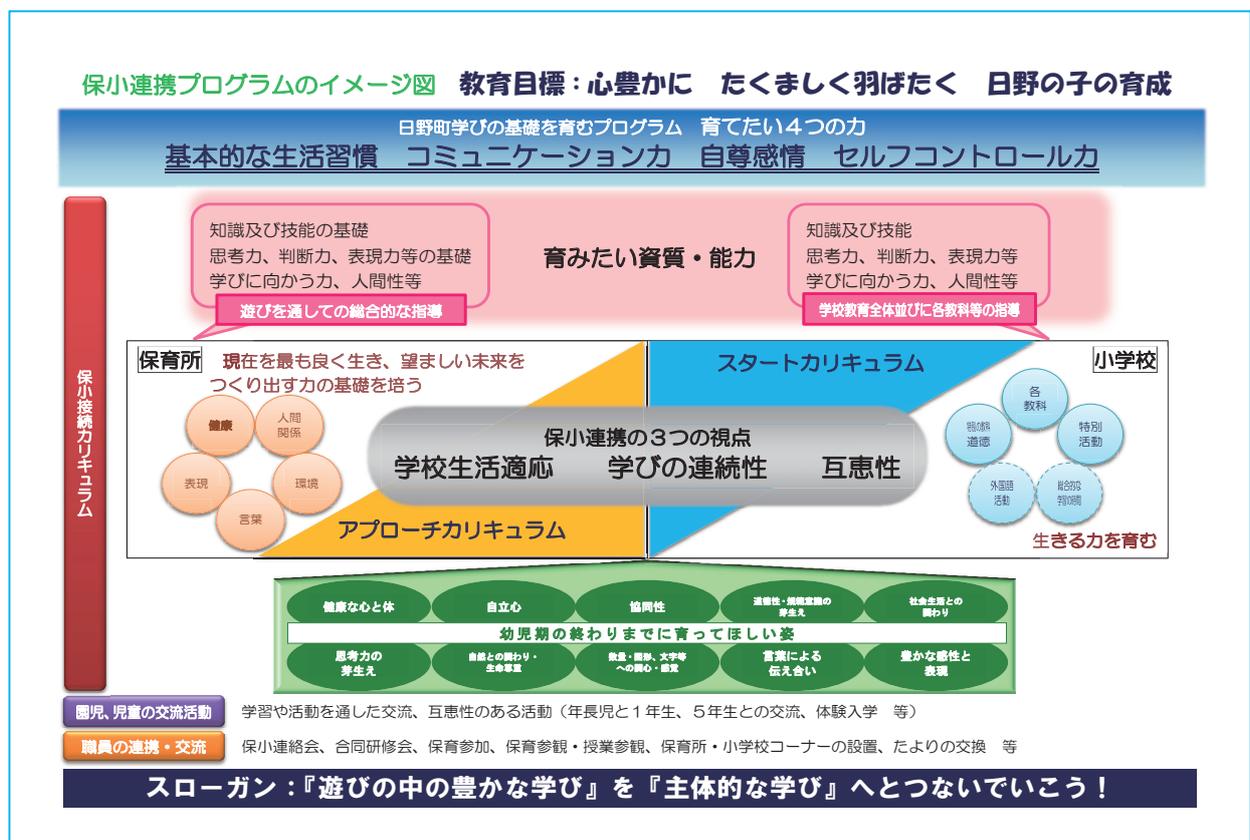
- ◆活動計画では、保小交流会の回数等について数値目標をあげており、日野町教育振興基本計画とつながる一貫した計画である。
- ◆連携推進に向けて活動が見通せるようになっている。また、接続カリキュラムに関して、「保小接続カリキュラムの活用と見直し」が位置付けられており、次年度へつなげるための工夫が行われている。

## ○改訂版「日野町保小連携推進計画（保小連携プログラム）」の作成・発行

保小・小小連携推進部会が中心となって、平成29年度には「日野町保小連携推進計画（保小連携プログラム）」の改訂版を発行している。

### 保小連携プログラムのイメージ図

教職員の共通理解・共通実践に向けて、教育委員会が中心となって「保小連携プログラム」のイメージ図を作成している。



- ◆教育目標、スローガン、育てたい4つの力、保小連携の3つの視点を示し共通理解が図られるようにしている。
- ◆スローガンは、教職員を主体とした表現となっており、意識の向上とともに具体的な取組の推進につながっている。
- ◆本イメージ図は、新幼稚園教育要領に明記された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を位置付けたものとなっている。
- ◆幼児期の教育における「5領域」と小学校教育における「各教科等」の位置付けも行われており、教職員にとって参考となる。

## アプローチカリキュラム

期間を1月から3月として、子供の育ちと学びをつなぐための取組を行っている。

### アプローチカリキュラム

1月

活動名	ねらい	10の 姿	育た い	主な内容	環境・構成	連携に向けた保育士の援助 (3つの視点との関連)	関連する行事
自分の身を守ろう	・色々な活動や体験を通して、危険なことから身を守り、安全な行動がとれる。【健】 ・自分でよいこと悪いことを判断し、危険のないよう行動する。【凶】	ア エ	1, 4	・安全かたるを楽しむ。 ・火災のときの避難の仕方を練習する。	・交通安全かたるをかたる置き場に設置する。	・必要に応じてクラス全体で考え、安全意識を高め自分の身を守るとともに、まわりの安全をも考えて行動できるようにしていく。【A】【C】	火災避難訓練
寒さに負けない丈夫な体をつくろう	・寒さに負けず積極的に体を動かし、体力・運動能力を高める。【健 環】 ・自分の体に関心をもち、健康な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。【健】	ア	1	・戸外遊びや、マラソンを楽しむ。 ・手洗いうがいの練習をする。	・遊戯室や園庭にラインを準備する。 ・「早寝、早起き、朝ご飯、履き物そろえ」の大切さについて話をする。 ・冬の感染症について通知する。	・体を動かす遊びを工夫し楽しさを味わえるような時間設定をする。【B】 ・生活習慣を整え、生活リズムの大切さを分かりやすく伝えていながら、進んで行う姿はほめてクラス全体に伝えていく。【A】 ・ねらいによるうがいの方法の違いを理解できるように、その都度知らせていく。【A】	
友達と一緒に正月あそびを楽しもう	・友達の中で自分の思いを主張したり、認め合ったりしながら遊びや活動を発展させる。【凶 言】 ・正月遊びを十分に楽しむ中で、用具を大切にしたり決まりの大切さに気付き守ろうとしたりする。【凶】	ウ エ	234	・遊びや活動の中で感想を発表したり相談したり話したりする。 ・正月遊びを楽しむ。	・感想を発表したり、相談したり話したりする場を設定する。 ・大縄跳び、短縄 ・かるた、すごろく、こま、けん玉等正月の遊び道具を準備する。	・一人一人が思いを出し合い、よさを認め合って遊びや活動が進められるよう、必要に応じて助言したりヒントを出したりする。【A】【B】 ・率先して遊ぶとともに、冬休み中に正月遊びを体験した子供の姿も引き出し、他の子どもへへの刺激にしている。【B】【C】	大縄跳び披露 紙芝居 発表会 (個人技) かるた取り会
地域の人と一緒に楽しもう	・地域の様々な人と関わり親しみをもつ。【環】	オ	2, 3	・高校生との交流を楽しんだり、地域の人から餅つきのやり方を教わったりする。		・子どもの気持ちに共感しつつ、喜びや悲しみを感ずる場面やその表現に注意を払い、思いやりの気持ちを育てていく。【A】	餅つき大会
文字・数・量図形を使ったあそびを楽しもう	・毎日の生活の中で文字・数量・図形等への関心を深め、それらを使った遊びや生活を楽しむ。【環 表】	カ ク	1	・時計を見ながら時間を意識して生活する。 ・形づくり・パズル	・時計の模型や数とひらがなの積木等をいつでも見られるところに設置する。	・一人一人の理解に応じ、必要な読み方や意味を分かりやすく伝えていく。【B】	数字の歌
冬の自然を感じ行事を楽しもう	・冬の自然や季節の行事への関心を深め、冬らしさを感じ取る。【環】	キ	3	・以上児によるかるた取り会や餅つき会、七草粥等の行事を楽しむ。 ・冬らしい事象を見付けることを楽しむ。	・様々な機会に、季節や行事に対する話題を提示する。 ・散歩や戸外遊びの時間を確保する。	・話の中に伝統行事の話題を取り入れ、関心をもたせるようにする。【B】 ・戸外遊び等で自然の変化に気付かせていく。【B】【C】 ・見つけたときの喜び、触った感触、集める楽しさ、調べる発見等、その日その場のタイミングを逃さず取り入れていく。【B】	たきび、お正月、雪等季節の歌 かるた取り会 餅つき会 七草粥
言葉や文字で伝えよう	・言葉や文字で伝える楽しさを味わう。【言】 ・考えや思いを言葉でやり取りする。【凶 言】	ケ	2, 3	・したことや感じたことを話して伝え合ったり、文字に書いて伝えたりすることを楽しむ。	・ひらがな積木や表、カード等を用意し、いつでも見られるように設置しておく。 ・活動の後や終わりの会等で思いを伝え合う場を設定する。	・筋道や考えを整理して、相手に分かるように話すにはどうすればよいかを一緒に考え、必要に応じて適切な言葉を補っていく。【A】【B】	紙芝居・絵本づくり、紹介
絵本を楽しもう	・絵本を見たり聞いたりして想像する楽しさを味わう。【言 表】	ケ	2, 3	・お話を司書、保育士よる読み聞かせを楽しむ。	・読み聞かせを受けた本を室内や園内に掲示し、何度も手に取れるコーナーを設置する。	・話の内容を吟味して、興味をもって物語の世界が楽しめるようにしていく。【B】	お話し会
歌って踊って楽しもう	・歌を歌ったり好きな曲を聴いたりして音楽の楽しさを味わう。【環 表】	コ	3	・歌やダンスの会で音楽の楽しさや体を使った表現を楽しむ。		・一緒に歌ったり踊ったりするとともに、聞いた曲や聞かせたい曲を食事中にかける等し、音楽に親しむ機会を多く設ける。【B】【C】	歌の会 ダンスの会
つくって楽しもう	・色々な素材を用い、試したり工夫してつくったりすることを楽しむ。【環 表】	コ	3	・お正月休みにしたことの絵をかいて楽しむ。	・色紙や画用紙の切れ端、様々なペン等を手にとれるように準備しておく。	・道具の使い方、片付け方等、必要に応じて知らせていく。【A】【B】	

☆保育内容の5領域 【健康…【健】 人間関係…【凶】 環境…【環】 言葉…【言】 表現…【表】】

☆幼児期の終わりまでに育ってほしい姿【健康な心と体…【ア】 自立心…【イ】 協同性…【ウ】 道徳性・規範意識の芽生え…【エ】 社会生活との関わり…【オ】 思考力の芽生え…【カ】

自然との関わり・生命尊重…【キ】 数量等への関心・感覚…【ク】 言葉による伝え合い…【ケ】 豊かな感性と表現…【コ】】

☆日野町学びの基礎を育むプログラム《育てたい4つの力》【基本的な生活習慣…1 コミュニケーション力…2 自尊感情…3 セルフコントロール力…4】

☆保小連携3つの視点 【学校生活適応…【A】 学びの連続性…【B】 互恵性…【C】】

- ◆保小連携の3つの視点（学校生活適応[A]、学びの連続性[B]、互惠性[C]）をはじめ、育てたい4つの力、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連等を示しており、「保小連携プログラム」と一貫性のある内容となっている。
- ◆カリキュラムの下に、イメージ図に基づいて内容を見とれるよう早見表を配置することで、小学校との共通軸での見取りが可能となっている。
- ◆園で活用してきた月案に、保小連携の視点を意識して記載することで、実際の保育活動における連携が具体として表されている。

### 「実践事例」

「保小連携プログラム」には、「実践事例」が掲載されており、どのような活動が行われたのかが、園・小学校の教職員に分かるものとなっている。以下にその一例を紹介する。

発表会をしよう	
実施時期	2月
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に考えたり工夫したりして取り組む楽しさを味わう。【人間関係・環境】</li> <li>・友達と互いの良さを認め合い自信をもって取り組む。【人間関係】</li> <li>・人前で自分を表現し、達成感を味わう。【表現】</li> </ul>
主な10の姿	協同性 社会生活との関わり 思考力の芽生え 数量等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現
育てたい力	コミュニケーション力 自尊感情 セルフコントロール力
保小連携の視点	互惠性
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までに年長児の発表を見て、自信をもって活動する姿に憧れを持っている。</li> <li>・たのしみ会で劇、ダンスを発表し、やり遂げる心地よさを感じている。</li> <li>・様々な素材の特性に気づき、イメージに合った物を使って衣装や道具などを作ることを楽しんでいる。</li> <li>・自分たちで相談し人形劇や会を進めていこうとしている。</li> <li>・友達同士で見せ合い、認め合ったり励まし合ったりすることで意欲が高まってきている。</li> </ul>
環境の構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頑張っているところ、よいところなどを友達同士で気付くことができるように、互いに見合えるような場所の構成をする。</li> <li>・友達と一緒に考えたり工夫したりして進めていけるよう、時間に余裕をもつ。</li> </ul>
園児の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見に来てくれた人たちを迎える。 いっちゃいませ こちらへどうぞ</li> <li>・発表会を進める。 お客さんがいっぱいではずかしいな 一緒にがんばって進めよう</li> <li>・発表したり、発表を見たりする。 がんばって発表するぞ 〇〇ちゃんすごい！ 上手になってるね！ 場所がせまいから、ちょっとずらそう</li> </ul>
予想される園児の反応	
活動の中で経験している内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を見てもらいたくて、友達や保育者に積極的に歓迎の言葉をかける。</li> <li>・見に来てくれた人たちとの言葉のやりとりや、場に応じた言葉使いをすることを楽しむ。</li> <li>・友達同士で考えを出したり協力し合ったりしながら会を進める。</li> <li>・友達同士で、互いの良さや頑張っているところを認め合い言葉をかける。</li> </ul>
連携に向けた保育士の援助（3つの視点との関連）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢の友達や全職員に、保育所生活で得た自分の得意なこと頑張ってきたことなどを発表したり、感謝の気持ちを伝えたりできるよう援助する。[B]</li> <li>・口の開け方や姿勢に気を付けながら友達や保育者の前で話す場を設け、援助する。[A][B]</li> <li>・友達の発表を見て、認め合ったり協力し合ったりして会を進めていけるよう援助する。[C]</li> </ul>
幼児期からつながる小学校での学びや育ち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。</li> <li>・相手に応じて話す事柄を順序立て、ていねいな言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話す。</li> <li>・友達と仲良くし、助け合う。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達とやりとりしながら考えたり工夫したりして会を進めることを楽しんでいる。</li> <li>・自信をもって自分を表現し、友達と互いの良さや頑張りを認め合い達成感を味わっている。</li> </ul>

- ◆プログラムにつながる「ねらい」「主な10の姿」「育てたい力」「保小連携の視点」について記載することで、活動における意図を確認することになる。
- ◆「これまでの経緯」「環境の構成」「園児の姿」など、園児の姿をもとにして記載しているため、小学校教職員にとっても分かりやすいものとなっている。
- ◆保小連携の「3つの視点」との関連についても記号〔A〕、〔B〕、〔C〕が明記されている。
- ◆「幼児期からつながる小学校の学びや育ち」を記すことにより、子供の育ちの連続性を確保していく視点が明確になっている。

## スタートカリキュラム

小学校におけるスタートカリキュラム実施期を10日間と設定し、この期間で小学校への適応をめざしている。

スタートカリキュラム					
時間	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
8:20～ 9:30 うきうき タイム		あいさつ、健康観察、1日の予定、朝の準備（靴箱、ロッカー、机）、学習に入る前の心の準備（チャイム、トイレ） イ1〔A〕 ねらい：担任と心を通わせながら心を落ち着かせ、学級で安心感をもって学習に向かえるようにする。			
		いちねんせいになったよ イ1〔A〕(生1) ・はじめと終わりのあいさつ ・名前を言う ・静かに待つ ・体操服の着替え方	うたでなかよしくなるうろこ2〔C〕(音1/3) ・歌・手遊び歌 みんなのせかい ケ1〔B〕(国2/3) ・読み聞かせ	うたでなかよしくなるうろこ2〔C〕(音1/3) ・歌・手遊び歌 はきはきあいさつ ケ1 2〔B〕(国2/3) ・あいさつ ・なぞなぞ ・読み聞かせ	うたでなかよしくなるうろこ2〔C〕(音1/3) ・歌・手遊び歌 ぼんがたたくさん ケ2〔B〕(国2/3) ・ことばあそび ・読み聞かせ
9:35～ 12:30 2～4 校時 休憩を含み弾力的な扱いをする	入学式 (行事1)  6年生とあそぼう オ2 3〔A〕〔C〕(学2/3)  いちねんせいになったよオ1 4〔A〕(生5/6)	身体測定 ア1〔A〕〔C〕(行事1)	せんせいあのおね コ3〔A〕〔C〕(図1) ・すきなものをなかに ・すきなものを教えてあげる (絵を見せながら発表) ・てるてる坊主作り	うたでなかよしくなるうろこ2〔C〕(音1/3) ・歌・手遊び歌 みんなのせかい ケ1 2〔B〕(国2/3) ・聞き方、話し方 ・手の挙げ方、発表の仕方	なかよくなりたいたいな (よろしくね・いちねんせいになったよ) ケ2〔A〕〔C〕 (国1/3 生2/3) ・名前を書いてみよう ・自己紹介の練習
		うたでなかよしくなるうろこ2〔C〕(音2/3) ・歌・手遊び歌 みんなのせかい ケ1〔B〕(国1/3) ・あいさつ ・いすの座り方 ・返事 ・教科書、筆箱の使い方	どっちがおおいかなく1〔B〕(算1) ・算数セットの使い方 ・ゲーム	みんなであそぼう アウ1 4〔B〕〔C〕(体1) ・体育館の使い方 ・鬼ごっこ ・ころがしドッジボール	みんなであそぼう アウ1 4〔B〕〔C〕(体1) ・体育館の使い方 ・鬼ごっこ ・タイヨ跳び
13:30～ 14:45 掃除 5校時 帰りの準備 終わりの会		いちねんせいになったよオ1 4〔A〕(生1/2) ・廊下の歩き方、整列の仕方 ・靴箱、傘かけの使い方の確認 ・登下校のルール たのしいきゆうしよくイウ1〔A〕〔C〕(判③) ・上級生の準備を見学 ・歯磨きの仕方・休憩時間の過ごし方の確認	しせいともちかた ク3〔B〕(書2/3) ・運筆練習 たのしいきゆうしよくイウ1〔A〕〔C〕(判③) ・給食の準備・食べ方・片付け(手伝いあり)	しせいともちかた ク3〔B〕(書2/3) ・鉛筆の持ち方 ・字をかく姿勢 ・運筆練習 たのしいきゆうしよくイウ1〔A〕〔C〕(判③) ・給食の準備・食べ方・片付け(手伝いあり)	いちねんせいになったよオ1 4〔A〕(生2/3)  たのしいきゆうしよくイウ1〔A〕〔C〕(判③) ・給食の準備・食べ方・片付け(手伝いあり)
		そうじのしかたをかんがえよう イウ4〔A〕(学1/2)  いちねんせいになったよケ3〔A〕(生1/2) ・絵本の読み聞かせ  帰りの準備・終わりの会	いちねんせいになったよオ1 4〔A〕(生1) ・掃除の仕方を見学 ・トイレ、水道の使い方 ・ロッカーや机の中の整頓等  帰りの準備・終わりの会	帰りの準備・おわりの会  交通安全教室 エ4〔A〕(行事1)  集団下校	そうじのしかたをかんがえよう イウ4〔A〕(学1/2) ・教室掃除の仕方 いちねんせいになったよオ1 4〔A〕(生1/2)  帰りの準備・終わりの会
大切にしたいこと	○楽しみながら小学校生活に慣れるような活動を行う。 ・保育所の朝の活動に関連づけて、うきうきタイムを設定する。 (歌や手遊び、ことば遊び、本の読み聞かせなど時間帯で取り組む。)				
☆幼児期の終わりまでに育ってほしい姿【健康な心と体…ア 自立心…イ 協同性…ウ 道徳性・規範意識の芽生え…エ 社会生活との関わり…オ 思考力の芽生え…カ 自然との関わり・生命尊重…キ 数量等への関心・感覚…ク 言葉による伝え合い…ク 豊かな感性と表現…コ】					
☆日野町学びの基礎を育むプログラム《育てたい4つの力》【基本的な生活習慣…1 コミュニケーション力…2 自尊感情…3 セルフコントロール力…4】					
☆保小連携3つの視点 【学校生活適応…〔A〕 学びの連続性…〔B〕 互恵性…〔C〕】					

- ◆担任だけではなく、全職員、また全校での連携体制を整え、一人一人の子供を丁寧かつスムーズに小学校生活にシフトチェンジできるよう内容を吟味して構成している。
- ◆弾力的な時間設定であり、合科的・関連的な学習を工夫している。
- ◆1年間の保育園における長期研修者（小学校教員）の経験をもとに「大切にしたいこと」の項目を設け、子供にとって負担のない経験を積み上げ、楽しみながら学習活動へ移行できるように工夫している。

## 1年生の各教科・領域における実践

### 算数科の例

算 数 科		
単元名	どっちがおおきな	
目 標	ものの集まりに着目し、1対1対応などにより数の多少が判断できる。	
活動のねらい	主な学習活動	合科・関連
○これから学ぶ算数に対して、興味、関心と大きな期待をもち、積極的に学ぶ意欲と態度をもつ。	①教科書を見て気付いたことを話す。 ②2つのものの集まりの要素を1対1に対応づけ、数の多少を調べる。 ③2つのものの集まりを数図ブロックに置き換え、数図ブロック同士を1対1に対応づけて、数の多少を調べる。 (算数セットの使い方・算数セットを使ったゲーム)	
単元名	かずとすうじ	
目 標	○具対物と半具対物(数図ブロック)とを対応させながら10までの数について、集合数(計量数)としての理解ができる。 ○5までの数について、よみ方やかき方を理解し、大小判断や合成・分解ができる。 ○10までの数のよみ方やかき方を理解し、大小判断ができる。	

- ◆スタートカリキュラムの実践のため、1年生の全教科・全領域における具体的な活動案を作成し、誰が担任となっても実践可能なものとなっている。

## 《成果と課題》

### 成果

#### 組織をつなぐ

- ・行政のリーダーシップのもと連携推進体制の整備及び日野町保小中一貫教育推進委員会による推進体制の確立が図られた。そのため、園と小中学校教職員一人一人が所属意識を持ち、主体的に連携推進を行うための組織力の向上が見られる。

#### 人をつなぐ

- ・保育所・小学校の教職員が、イメージ図をもとに、「保小連携プログラム」の共通イメージをもって連携推進に向かっている。交流活動前後の打合せ、保育参加・体験や授業参観後の協議等でも子供の姿や学びや育ちの視点で協議できるようになり、相互理解が確実に進むことになった。

#### 教育をつなぐ

- ・「保小連携プログラム」の作成・発行により、幼児期の教育と小学校教育の具体的なつながりがより明確になっている。幼児期の豊かな体験をもとに、小学校で積み上げていく教育内容をカリキュラムに位置付け、実践の深まりが見られる。

### 課題

- ・具体的な実践についての記録を検証しながら、誰が担任になっても一人一人の子供の良さをのばすことができる具体的なカリキュラムを検討していく必要がある。
- ・本年度発行した「保小連携プログラム」を評価・改善し、園・小学校教職員の主体的な取組による推進体制の一層の向上を図る。

### (3) 鳥取市の事例

#### 【取組の特徴】

鳥取県東部に位置し、人口は約19.1万人である。

鳥取市教育委員会がモデル地域に選定した1小学校区の3園・小学校（鳥取市立醇風小学校、鳥取第二幼稚園・おひさま保育園、鳥取市立みたから保育園、むつみ保育園）が相互理解を基盤とした幼保小連携の取組を推進している。この成果を鳥取市全域の各園（60園）、小学校（44校）、中学校（21校）などに普及することを通して、市内における円滑な幼保小接続に向けた取組の深化・充実をめざしている。

#### ○鳥取市立醇風小学校区幼保小連携推進計画の作成・実施

園と学校が組織としてつながるため、取組を推進する連携推進計画を作成している。

H28年度 醇風小学校区幼保小連携推進に向けて		H28.6.15				
<b>1 醇風小学校区幼保小連携の1年間の取組・内容</b>						
(1) 醇風小学校区幼保小連携協議会（園長・校長）5回（4月・6月（臨時）・7月・11月・2月）						
○情報交換（今年度の園児・児童の実態、園・学校の取組、西中学校区の取組、その他）						
○幼保小連携推進モデル事業について（6月）						
○今年度の共通取組（園・学校の活動、保護者対応）						
○今年度の共通取組評価・次年度共通取組						
(2) 醇風小学校区幼保小連絡会（副園長・教頭・保育士・教諭）3回						
①6月	○各園の年中・年長（支援を要する園児）の状況把握と1年生の状況の情報交換（外部機関も出席）					
	○今年度の園児と児童の交流について等					
②12月	○各園と小1・2年生情報交換、年間指導計画の見直し（スタートカリキュラムとアプローチカリキュラム）・・・カリキュラムの作成・見直しについては別途計画					
③2月	○新1年生の状況把握、支援を要する新1年・年中園児の状況等					
(3) 教職員等の合同研修会・・・7月28日、1月18日						
○3園での保育体験（1年目…全職員、2年目…転任職員と担当者）						
<b>2 年間計画、担当園・校</b>						
	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
連携協議会（4月・6月・2月）	醇風小	醇風小	醇風小	醇風小	醇風小	醇風小
連携協議会（7月）	認定こども園	認定こども園	認定こども園	認定こども園	認定こども園	認定こども園
連携協議会（11月）	みたから保育園	むつみ保育園	みたから保育園	むつみ保育園	みたから保育園	むつみ保育園
連絡会（6月） ・年中・年長・1年の情報交換	醇風小	醇風小	醇風小	醇風小	醇風小	醇風小
連絡会（12月） ・小1・2年生情報交換、年間指導計画の見直し （スタートカリキュラムとアプローチカリキュラム）	醇風小	醇風小	醇風小	醇風小	醇風小	醇風小
連絡会（2月） ・新1年生の状況把握	醇風小	醇風小	醇風小	醇風小	醇風小	醇風小
合同研修会（7月、1月）	醇風小		醇風小		醇風小	
教員保育体験（7月）全職員、転入教員と交互に実施	3園（全職員）	認定こども園 （転入職員）	3園（全職員）	認定こども園 （転入職員）	3園（全職員）	認定こども園 （転入職員）
<b>3 その他</b>						
○親子読書推進・・・年代に応じた本のリスト配布（醇風小より3園へ）						

#### 醇風小学校区の連携推進体制

- ◆平成26年度より小学校が中心となって体制整備
- ◆校長と各園長で「幼保小連携協議会」を組織。隔月開催（年5回）。各園や学校の取組状況等の情報交換による取組を総括している。
- ◆1・2年生担任、教頭、4・5歳児担任、副園長で幼保小連絡会を組織（年3回）。児童・園児に関する情報交換、交流活動の打合せ、就学に向けての引継ぎ等を行っている。

#### 幼保小連携推進委員会

- ◆小学校1年担任、各園代表1名、鳥取市教育員会事務局指導主事で組織。接続カリキュラム編成や実践を共有する場として、平成28年度に立ち上げた。不定期開催。
- ◆校区で共有した「就学前後に校区で育てたい子どもの姿」をもとに、幼保小の教職員が学びのつながりを意識した接続カリキュラムの編成や共通実践、交流活動についての協議を行っている。

# ○視覚化された接続カリキュラムの編成

平成28年度より「幼保小連携推進委員会」において、接続カリキュラム（アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム）を編成している。共通する項目を色分けして統一するなど、視覚化されたカリキュラムである。

## アプローチカリキュラム

接続カリキュラム		(教育目標) 『生きる力があふれる子ども』の育成 ～あかるく・やさしく・たくましく～							鳥取第二幼稚園おひさま保育園)		
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを言葉で伝えられなかったり、一方的に自分の思いを主張しようとし、相手の気持ちを考えたり、折り合いをつけたりしながら自分の考えや思いを伝えようとする姿が少ない。</li> <li>いろいろな遊びや環境に興味を持って意欲的に取り組もうとする。しかし、興味が続かず、遊びの発展や継続が乏しい。</li> <li>生活の決まりを守れず、次の活動への切り替えができにくい子どもがいる。また、保育教諭からの指示を待つ傾向がある。</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろなことに興味を持ち、挑戦しようとする。</li> <li>自分の思いを上手に伝えたり、相手の気持ちを受け止めたりできないときがある。</li> <li>自分の気持ちを伝えたり友達への思いを受け止めたりしながら、人間関係を広げる。</li> <li>互いに考えや意見を出し合い、協力して活動する。</li> <li>興味・関心を大切に、困難なことがあっても諦めずに最後まで取り組む。</li> </ul>		
育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 集団の中で約束やまじりがわかり、見通しを持って、行動したり生活したりすることができる。</li> <li>2 友だちと積極的な運動遊びに取り組み、競い合ったり、みんなで簡単なルールを作ったりして遊ぶことを楽しむことができる。</li> <li>3 自分の感じたことを友だちとわかるように伝え、友だちの思いを受け入れる。</li> <li>4 共通の目的を持ち、友だちと役割分担をして、互いに考えや意見を出し合い協力して遊びや生活を進める。</li> <li>5 考えたり工夫したりして遊び、困難に感じることも諦めずに取り組む。</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>1 新しい集団の中で約束やまじりを理解し、見通しを持って活動する。</li> <li>2 友だちと進んで関わろうとし、教師や友達との生活を楽しむ。</li> <li>3 自分の気持ちを伝えたり友達への思いを受け止めたりしながら、人間関係を広げる。</li> <li>4 互いに考えや意見を出し合い、協力して活動する。</li> <li>5 興味・関心を大切に、困難なことがあっても諦めずに最後まで取り組む。</li> </ul>		
定着させたい力	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自分たちで生活の場を整えながら、一日の生活の流れを意識して行動しようとする。</li> <li>② 競い合ったり、協力したりして友達と一緒に体を動かすことを楽しむ。</li> <li>③ 【サッカー・リレー・縄跳び・ボールつき・鉄棒・マラソン大会・すもも交流(第2回)】</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>① 安全に過ごすための生活のきまりを理解して、気をつけて生活しようとする。</li> <li>② 時計を意識して見通しを持って生活する。</li> <li>③ 自分の目標を持ち、いろいろな運動に挑戦したり、繰り返し取り組んだりする。</li> </ul>	【時間割、モーニングRUN、給食、集団下校】	
および	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自分自身の思いや考えを相手に伝え、友達の思いを受け入れる。</li> <li>② 友達と共通の目的を持ち、役割分担しながら遊ぶ。</li> <li>③ 【お店屋さんごっこ・運動遊び・すももごっこクリスマスパーティー・異年齢交流】</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自分自身の気持ちを伝え、いろいろな友だちと進んで関わろうとする。</li> <li>② 友だちの考えを知り、折り合いをつけて生活する。</li> <li>③ 学校生活のきまりを守り、みんなで使う場所や場を大切にすること。</li> </ul>	【清掃活動、当番活動、縦割り活動、休憩】	
活動・遊び									<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学習に必要なきまりを知り、守る。(学習規律)</li> </ul>		

接続カリキュラム		(保育方針) 生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、健康で豊かな心と体を育てる いろいろな遊びや活動を通して、人とのかわりを深めながらともに支え合う仲間づくりをする							(みたち保育園)		
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜寝たり目覚めたりが不十分だったり、朝ごはんを食べていなかったりして、生活リズムが整っていない子どもがいる。</li> <li>・自分の思いや考えを言葉で表現し、相手の思いに寄り添いながら話したり、聞いたりするなど、コミュニケーションの力が弱かったりする子どもがいる。</li> <li>・やってみようという探究心があり、様々なことに興味でできているが、工夫したり試したりすることができない。</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろなことに興味を持ち、挑戦しようとする。</li> <li>・自分の思いを上手に伝えたり、相手の気持ちを受け止めたりできないときがある。</li> <li>・自分で考えて活動したり、粘り強く最後まで取り組んだりすることに消極的である。</li> </ul>		
育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 集団の中で約束やまじりがわかり、見通しを持って、行動したり生活したりすることができる。</li> <li>2 友だちと積極的な運動遊びに取り組み、競い合ったり、みんなで簡単なルールを作ったりして遊ぶことを楽しむことができる。</li> <li>3 自分の感じたことを友だちとわかるように伝え、友だちの思いを受け入れる。</li> <li>4 共通の目的を持ち、友だちと役割分担をして、互いに考えや意見を出し合い協力して遊びや生活を進める。</li> <li>5 考えたり工夫したりして遊び、困難に感じることも諦めずに取り組む。</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>1 新しい集団の中で約束やまじりを理解し、見通しを持って活動する。</li> <li>2 友だちと進んで関わろうとし、教師や友達との生活を楽しむ。</li> <li>3 自分の気持ちを伝えたり友達への思いを受け止めたりしながら、人間関係を広げる。</li> <li>4 互いに考えや意見を出し合い、協力して活動する。</li> <li>5 興味・関心を大切に、困難なことがあっても諦めずに最後まで取り組む。</li> </ul>		
定着させたい力	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 体を動かす楽しさを感じ、自分なりのあそびをもつて繰り返すいろいろな運動遊びに取り組む。</li> <li>② 生活の流れに見通しを持って行動しようとする。</li> <li>③ ルールの必要性や危険などに気づき、意識して行動しようとする。</li> <li>④ 【チャレンジ・縄跳び・鉄棒・当番活動・ピカピカデー・交通安全教室】</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>① 安全に過ごすための生活のきまりを理解して、気をつけて生活しようとする。</li> <li>② 時計を意識して見通しを持って生活する。</li> <li>③ 自分の目標を持ち、いろいろな運動に挑戦したり、繰り返し取り組んだりする。</li> </ul>	【時間割、モーニングRUN、給食、集団下校】	
および	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 友だちとの考えを聞いたり、自分の考えを話したりして伝えるうれしさを感じる。</li> <li>② 友達と役割分担をし、互いに考えを出し合い協力して遊びや生活を進める。</li> <li>③ 自分の考えと相手の違いに気づき、折り合いをつけて遊びをすすめる。</li> <li>④ 【当番活動・協同製作・合奏・運動遊び・おひさまさんごっこ・おたのしみ】</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自分自身の気持ちを伝え、いろいろな友だちと進んで関わろうとする。</li> <li>② 友だちの考えを知り、折り合いをつけて生活する。</li> <li>③ 学校生活のきまりを守り、みんなで使う場所や場を大切にすること。</li> </ul>	【清掃活動、当番活動、縦割り活動、休憩】	
活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 身近な動物や自然環境に興味や関心をもち遊びにたのしみ、よき関係を築いていく。</li> <li>② 興味をもつて関わりあう。</li> <li>③ 【身近な環境から関わりあう遊び、工夫したりして遊び、よき関係を築いていく。】</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学習に必要なきまりを知り、守る。(学習規律)</li> <li>② 「わかった」「できた」という喜びを感じ、進んで生活や学習をし、達成感を味わう。</li> </ul>		

接続カリキュラム		(保育方針) 仲間とともに生き生きと活動し、心豊かたたくましく子どもを育成する							(むつみ保育園)			
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく元気な姿に自信がある。</li> <li>・積極的に体を動かして遊び、少し難しいことも挑戦して粘り強くやり遂げようとする力が育ってきている。</li> <li>・遊びの中で工夫したり試したりすることができない。</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろなことに興味を持ち、挑戦しようとする。</li> <li>・自分の思いを上手に伝えたり、相手の気持ちを受け止めたりできないときがある。</li> <li>・自分で考えて活動したり、粘り強く最後まで取り組んだりすることに消極的である。</li> </ul>			
育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 集団の中で約束やまじりがわかり、見通しを持って、行動したり生活したりすることができる。</li> <li>2 友だちと積極的な運動遊びに取り組み、競い合ったり、みんなで簡単なルールを作ったりして遊ぶことを楽しむことができる。</li> <li>3 自分の感じたことを友だちとわかるように伝え、友だちの思いを受け入れる。</li> <li>4 共通の目的を持ち、友だちと役割分担をして、互いに考えや意見を出し合い協力して遊びや生活を進める。</li> <li>5 考えたり工夫したりして遊び、困難に感じることも諦めずに取り組む。</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>1 新しい集団の中で約束やまじりを理解し、見通しを持って活動する。</li> <li>2 友だちと進んで関わろうとし、教師や友達との生活を楽しむ。</li> <li>3 自分の気持ちを伝えたり友達への思いを受け止めたりしながら、人間関係を広げる。</li> <li>4 互いに考えや意見を出し合い、協力して活動する。</li> <li>5 興味・関心を大切に、困難なことがあっても諦めずに最後まで取り組む。</li> </ul>			
定着させたい力	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 食事、着脱、排泄など、生活に必要な活動を自分でする。</li> <li>② 積極的に運動遊びに取り組み、競い合ったりルールを作ったりして遊ぶ中で、体力をつける。</li> <li>③ ルールの必要性や危険などに気づき、安全に行動しようとする。</li> <li>④ 【サッカー、跳び箱、リレー、縄跳び、おにごっこ】</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>① 安全に過ごすための生活のきまりを理解して、気をつけて生活しようとする。</li> <li>② 時計を意識して見通しを持って生活する。</li> <li>③ 自分の目標を持ち、いろいろな運動に挑戦したり、繰り返し取り組んだりする。</li> </ul>	【時間割、モーニングRUN、給食、集団下校】		
および	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 友だちと積極的にかかわり、相手の気持ちを考える。</li> <li>② 自分の経験したことや聞いたことを相手にわかるように話す。</li> <li>③ 友だちと共通の目的を持ち、ルールを守りながら遊びを楽しむ。</li> <li>④ 【お店屋さんごっこ、エコ遊び、給食当番、とんとん隊、伝言ゲーム、異年齢交流】</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自分自身の気持ちを伝え、いろいろな友だちと進んで関わろうとする。</li> <li>② 友だちの考えを知り、折り合いをつけて生活する。</li> <li>③ 学校生活のきまりを守り、みんなで使う場所や場を大切にすること。</li> </ul>	【清掃活動、当番活動、縦割り活動、休憩】		
活動・遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 五感を使った遊びを通して、感じたり考えたり工夫して遊びを発展させようとする。</li> <li>② 日常生活の中で、数や文字に関心を持ち、生活に自ら入れる。</li> <li>③ 生活や遊びを通して、感じたことや考えたことを自由に描いたり、作ったり、演じたりして遊ぶ。</li> <li>④ 【草花、たんぽぽなど自然物を使った遊び、劇遊び、楽器遊び】</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学習に必要なきまりを知り、守る。(学習規律)</li> <li>② 「わかった」「できた」という喜びを感じ、進んで生活や学習をし、達成感を味わう。</li> </ul>			
児童と園児の交流	・なかよくならう集會	・おちまやまつり			※2			※3				
職員連携	・良い面や成長している姿を伝える(個別懇談)	・保護者の期待や不安に寄り添った(クラス茶話会)			・集団での育ちを伝える(保育参観)			・学年、学級懇談			・家庭訪問	・学校、学年行事
家庭連携	・良い面や成長している姿を伝える(個別懇談)	・保護者の期待や不安に寄り添った(クラス茶話会)			・集団での育ちを伝える(保育参観)			・学年、学級懇談			・家庭訪問	・学校、学年行事
環境構成・留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの目標を持って取り組み、力を発揮して遊ぶことができるように、運動遊びに必要な道具を準備したり確保したりする。</li> <li>・相手の思いを聞いて受け入れるから遊ぶ姿を言葉に出して認め、自信を持ってかかわり合えるようにする。</li> <li>・秋の自然物を使い遊んだり取り入れて楽しめるよう様々な材料を用意したり、遊びのアプローチを一緒に考えながら遊ぶ時間を確保したりする。</li> <li>・不思議に感じたことや身近な自然物に興味を持った時に自ら調べることができるよう図鑑や本を用意しておく。</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動が理解しやすいように、具体物を使う。</li> <li>・モジュール学習を取り入れる。</li> <li>・新しい集団になれたために、ゲームを通して友達との関わりを増やす。</li> <li>・生活の中でトラブルが生じたときに、自分の気持ちを伝えられるよう支援をする。(手帳、写真、シール、カード)</li> <li>・視覚的な支援をする。</li> </ul>			

- ◆校區の子供たちの実態を踏まえ、小学校と各園が共通の方向性を示すものとして、就学前後に校區で「育てたい子どもの姿」を示している。(※1)
- ◆「定着させたい力」の3つの観点(「健康な体づくり」「豊かな人間性づくり」「学びの基礎づくり」)を統一して示し、共通して育てたい力・姿を明らかにしている。視点は、共通であるが、各園の実態に合わせて活動内容等が工夫されている。
- ◆定着させたい力として「【健康な体づくり】食育・運動・安全・生活習慣」「【豊かな人間性づくり】自己発揮・協同性・きまり」「【学びの基礎づくり】意欲・探究心・表現」の3つの観点と10の視点を示している。その力を色分けして視覚的に分かりやすくしている。
- ◆就学前後に校區で「育てたい子どもの姿」(※1)をもとに、各園が自園の保育・教育目標等に照らし合わせながら、定着させたい力やそれを育む活動や環境の構成等を検討し、編成している。(※2)
- ◆3園のアプローチカリキュラムに共通して小学校における「育てたい力及び活動・遊び」等が位置付けられている。

### アプローチカリキュラムの実践事例

アプローチカリキュラムの実践	
園名・実施時期	みたから保育園(12月～1月実施)
活動名	1 みんなでつくった発表会 2 気持ちをつなぐ郵便ごっこ
ねらい	1 それぞれの役を自分なりに表現しながら、クラスの友達と力を合わせて一つの劇を作りあげる楽しさややり遂げた満足感を味わう。 2 文字に関心を持ちながら、友だちと気持ちを伝えあう楽しさを感じる。
接続を意識したポイント	1 表現する楽しさや友達と遊びを進めていく面白さを感じ、クラスでひとつの事をやり遂げる経験を通して、のびのびと自己発揮し人の思いを受け止めたり協力したりする事の大切さを実感できるようにする。 2 絵や文字を使い友だちと葉書をやりとりして、気持ちを伝える楽しさや伝わるうれしさを感じるとともに、文字への関心を持ち、文字を書きたいという意欲を高めていく。また、ルールを決め、役割を分担しながら遊びを進め、主体的に活動することで達成感を実感できるようにし、自信を持たせていく。

**育ちにつながる子どもの様子**



みんなで作り上げた劇をやり遂げた満足感がいっぱいの笑顔です。



「ハッピーハッピーバースデー！」  
みんなで、いろんな役をしたね。  
あー！楽しかった！

楽しく書いた葉書を役割分担してクラスの友だちに届けます。郵便屋さんになるのも楽しみで、はりきって今日の仕事を始めています。

今日はわたしたちが郵便屋さん！  
みんなのはがき届けなきゃ！  
今日のスタンプ押しますよー

アプローチカリキュラムの実践	
園名・実施時期	むつみ保育園(12月実施)
活動名	どんぐり迷路を作ろう
ねらい	・小学校交流会を通して、就学に期待を膨らませながら意欲的に活動する。 ・いろいろな材料を使い、考えたり試したり工夫したりして遊ぶ。
接続を意識したポイント	○酔風小交流会で遊んだどんぐり迷路を自分たちでも作り、達成感を味わうようにすることで就学への期待を高めるようにする。 ○思考力、創造力、探究力を育むことが、学ぶ力につながるため、遊びの中に取り入れていく。

**育ちにつながる子どもの様子**



どんぐりを使って、迷路ができるんだ。スタートとゴールがよくわかるなあ。



どれを使おうかな。これをトンネル

いろいろな材料の中から、使いたい材料を主体的に選ぶことを大切にしています。



一年生は、プリンカップをスタートやゴールにしていたよね。見て、トンネルができたよ。



こうしたら通るんじゃないかな。ほら、ゴールできたよ。

一年生が工夫していたところを真似してみようとしたり、自分なりに考えて友だちに提案したりすることもありました。

どんぐりが通るかやってみよう。

自分たちが工夫して作った物で遊ぶ楽しさを味わいました。

アプローチカリキュラムの実践		アプローチカリキュラムの実践	
園名・実施時期	むつみ保育園（10月実施）	園名・実施時期	認定こども園 鳥取第二幼稚園おひさま保育園（3月実施）
活動名	きりん組 あきまつり	活動名	「つばめ組オリジナルカルタで遊ぼう！」
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを伝えたり、友だちの思いを聞いたりしながらやりとりを楽しむ。</li> <li>役割を分担しながら、協力して遊びを進める。</li> </ul>	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>カルタ遊びを通して、言葉や文字への興味関心を深める。</li> <li>グループでの活動を通して、友達と協力しながら遊びを進める楽しさを味わう。</li> </ul>
接続を意識したポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを表現したり、友だちの思いを聞いて折り合いをつけたりしながら遊びを進めることを通して、園生活、学校生活の基盤を育てる。</li> <li>遊びを通して、役割を分担することや話し合って協力することで、友だちとのつながりを広げるようにする。</li> </ul>	接続を意識したポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いや感じたことを言葉で表現し、互いに思いを伝えあいながら友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。</li> <li>カルタ遊びを通して、文字や言葉を使って遊ぶ楽しさを味わえるようにするとともに、言葉の理解や文字を読む意欲につながるようにする。</li> <li>友達と読み手や取り手などの役割分担やルール決めをしたり、同じグループの友達を応援しながら遊びを進めることができるように援助をする。また、友達と相談したり、工夫したりしながら、主体的に遊びを展開することができるような援助や環境構成をする。</li> </ul>
育ちにつながる子どもの様子		育ちにつながる子どもの様子	
 <p>くじききの箱を作ろう。当たりを少なくして、はずれを多く入れたほうがいいよね。</p> <p>わたしもまだやりたい。</p> <p>次、やきそばを焼く役をかわって。</p> <p>じゃあ、後でかわってね。</p> <p>自分たちで遊びに必要な物を考えたら遊びが楽しくなるか話し合う姿が見られました。自分の考えを話したり友だちのアイデアを聞いたりしています。</p> <p>やりとりをしながら折り合いをつける姿が育ってきました。</p>		 <p>『う』んどうかい、リレーやマーチングをがんばったね。</p> <p>つばめ組オリジナルカルタの完成！！自分が書いたカルタを読んで、みんな紹介します。</p> <p>お手付きは、一回休みだよ</p> <p>読み手の言葉をよく聞いて・・・あつた！！</p> <p>自分たちで作ったカルタを使って遊びました。役割分担したり、遊びのルールを工夫したりしながら遊びます。</p>	
 <p>やりかた、わかる？こうやってするんだよ。</p> <p>いらっしやい、いらっしやい。おいしいやきそば、いりませんか。</p> <p>やきそば、ください。目玉焼きもいります。</p> <p>ごっこ遊びを通して年下の友だちに、優しくかわわろうとする姿も育ちました。</p>			

- ◆ 共通様式を使って実践を記録として残すことで、校区共通の観点での振り返りや情報交換、来年度の実践に向けての資料となる。
- ◆ 学びの連続性を意識してカリキュラム編成を行ったことで、「就学前後に校区で育てたい子どもの姿」を意識し、交流活動を園の遊びにつなげるなど、思考力や探究心などの学びの芽生えを育もうという保育者の意識向上につながっている。

### 小学校



『おもちゃまつり』（交流活動）  
1年生が作ったどんぐり迷路で一緒に遊ぶ。

### 園



『どんぐり迷路を作ってみよう』  
交流活動で見た1年生の工夫を真似したり、友だちと相談したりしながら作っている。

交流活動を園での遊びにつなぐ



スタートカリキュラム (週案)

第1週 平成29年4月10日～14日							
	10	11	12	13	14		
	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土) (日)	
学年のねらい	一年生になったことを喜び学校生活に必要な約束(よいこのきまり、静風五心など)を知り、安心して学校に通うことができる。						
行事	入学式	町区別児童会	発育測定	ハーナウ市との交流会	交通安全教室		
朝	①朝の準備 ②朝読書・自由帳 ③朝の会 ・さんぽなど、子ども達が慣れ親しんだ歌を歌う。 ・紙芝居や絵本の読み聞かせをする。 ・じゃんけんゲームなどのアイスブレイク						
1	国語・生活 ①あひさつ、あはよごさいまぎ ②手洗いの正しい方法 ③下座席かかどの使い方 ④ランドセルの重さ ⑤体操服の着替え	①おはようごさいまぎ ②ランドセルの重さ ③あひさつ ④算数 ・算数ボックスの確認	①おはようごさいまぎ ②ランドセルの重さ ③あひさつ ④算数 ・算数ボックスの確認	①おはようごさいまぎ ②ランドセルの重さ ③あひさつ ④算数 ・算数ボックスの確認	①おはようごさいまぎ ②ランドセルの重さ ③あひさつ ④算数 ・算数ボックスの確認		
2	①手の洗い方 ②下座席かかどの使い方 ③生活 ・学校探検 ・白衣の着方 ・当番の仕方	①手の洗い方 ②下座席かかどの使い方 ③生活 ・学校探検 ・白衣の着方 ・当番の仕方	①手の洗い方 ②下座席かかどの使い方 ③生活 ・学校探検 ・白衣の着方 ・当番の仕方	①手の洗い方 ②下座席かかどの使い方 ③生活 ・学校探検 ・白衣の着方 ・当番の仕方	①手の洗い方 ②下座席かかどの使い方 ③生活 ・学校探検 ・白衣の着方 ・当番の仕方	①手の洗い方 ②下座席かかどの使い方 ③生活 ・学校探検 ・白衣の着方 ・当番の仕方	交通安全教室
3	①給食準備 ・横道紙に手順を示す。 ・準備時間の確保→時間を短くする。 ・食べ終わった児童への視覚的支援(給食を食べる→歯磨き→読書)	①給食準備 ・横道紙に手順を示す。 ・準備時間の確保→時間を短くする。 ・食べ終わった児童への視覚的支援(給食を食べる→歯磨き→読書)	①給食準備 ・横道紙に手順を示す。 ・準備時間の確保→時間を短くする。 ・食べ終わった児童への視覚的支援(給食を食べる→歯磨き→読書)	①給食準備 ・横道紙に手順を示す。 ・準備時間の確保→時間を短くする。 ・食べ終わった児童への視覚的支援(給食を食べる→歯磨き→読書)	①給食準備 ・横道紙に手順を示す。 ・準備時間の確保→時間を短くする。 ・食べ終わった児童への視覚的支援(給食を食べる→歯磨き→読書)	①給食準備 ・横道紙に手順を示す。 ・準備時間の確保→時間を短くする。 ・食べ終わった児童への視覚的支援(給食を食べる→歯磨き→読書)	①給食準備 ・横道紙に手順を示す。 ・準備時間の確保→時間を短くする。 ・食べ終わった児童への視覚的支援(給食を食べる→歯磨き→読書)
4	①帰りの準備						
5	②町区別児童会						
下校時刻	12:00	14:20	14:50	14:50	14:50		
特記事項	【○環境構成 ※支援 ・準備資料等】 ○視覚支援に必要な物を準備しておく。 ○下校グループの確認、印付け。 ○朝、一日のスケジュールを示しておき、帰りは家庭への連絡。 ※教師との一対一の関わりを大切に、一人ずつ言葉かけを丁寧に行う。 ※幼稚園や保育園での体験を生かし、「できる」という気持ちを支えにして、安心感を持って ・学年便りの準備 配布物の確認。 ・紙芝居や絵本の準備。 ・活動が早く終わった児童へのぬいせ、学級文庫の準備。 ・保育園で習った手遊びや歌の提示。 ・学校めぐりに向けて校内に呼びかける。 ・家庭訪問の準備。						

※4

第2週 平成29年4月17日～21日							
	17	18	19	20	21		
	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土) (日)	
学年のねらい	体系的な活動を通して、学級の友だちと仲良く関わろうとすることができる。						
行事						参観日	
朝	①朝の準備 ②朝読書・自由帳 ③朝の会 ・さんぽなど、子ども達が慣れ親しんだ歌を歌う。 ・紙芝居や絵本の読み聞かせをする。 ・じゃんけんゲームなどのアイスブレイク						
1	国語 (みんなのせかい) ・大きな声で詩を読む。 ・第1場面：見つけたことを発表 ・なぞり書き	国語 (みんなのせかい) ・大きな声で詩を読む。 ・第2場面：見つけたことを発表 ・なぞり書き	国語 (みんなのせかい) ・大きな声で詩を読む。 ・第3場面：見つけたことを発表 ・なぞり書き	算数 (かずとすうじ) ・大きな声で詩を読む。 ・第4場面：見つけたことを発表 ・なぞり書き	歯科検診 ・大きな声で詩を読む。 ・第5場面：見つけたことを発表 ・なぞり書き		
2	生活 (学校探検) ・掃除場所 ・拭き方	算数 (かずとすうじ) ・大きな声で詩を読む。 ・第1場面：見つけたことを発表 ・なぞり書き	生活 (学校探検) ・掃除場所 ・拭き方	生活 (学校探検) ・掃除場所 ・拭き方	生活 (学校探検) ・掃除場所 ・拭き方	生活 (学校探検) ・掃除場所 ・拭き方	生活 (学校探検) ・掃除場所 ・拭き方
3	生活 (学校探検) ・掃除場所 ・拭き方	生活 (学校探検) ・掃除場所 ・拭き方	生活 (学校探検) ・掃除場所 ・拭き方	生活 (学校探検) ・掃除場所 ・拭き方	生活 (学校探検) ・掃除場所 ・拭き方	生活 (学校探検) ・掃除場所 ・拭き方	生活 (学校探検) ・掃除場所 ・拭き方
4	生活 (学校探検) ・掃除場所 ・拭き方	生活 (学校探検) ・掃除場所 ・拭き方	生活 (学校探検) ・掃除場所 ・拭き方	生活 (学校探検) ・掃除場所 ・拭き方	生活 (学校探検) ・掃除場所 ・拭き方	生活 (学校探検) ・掃除場所 ・拭き方	生活 (学校探検) ・掃除場所 ・拭き方
5	(帰りの準備) ・読み聞かせ ・じゃんけんゲーム ・朝の会についての指導 ・自己紹介カードの練習などを行う。						
下校時刻	14:40	14:40	14:30	14:40	14:40		
特記事項	【○環境構成 ※支援 ・準備資料等】 ○視覚支援に必要な物を準備しておく。 ○朝、一日のスケジュールを示しておき、帰りは家庭への連絡。 ※教師との一対一の関わりを大切に、一人ずつ言葉かけを丁寧に行う。 ※幼稚園や保育園での体験を生かし、「できる」という気持ちを支えにして、安心感を持って ※自分のことを友だちの前で話す機会を持つようにする。(自己紹介、好きなもの) ・学年便りの準備 配布物の確認。 ・保育園で習った手遊びや歌の提示。 ・参観日に向けて、初めて書いた自分の名前を掲示する。						

※4

◆週案は、教師の意識化を図るために、時程を以下のように色分けをしている。

桃色：幼児期の体験を生かした学習

黄色：学校の生活に関する学習

緑色：生活科を中心とした総合的・関連的な学習

水色：教科等を中心とした学習

◆1・2週目は、黄色の生活に関する学習や桃色の幼児期の体験を生かした学習、緑色の生活科を中心とした学習が多い。

◆幼児期の教育で培った力を生かし、安心した人間関係が構築できるような支援や環境の構成を留意点として資料の下部(※4)に記載している。

◆子供の集中時間に合わせて、1単位時間を弾力的に運用している。

◆3週目からは、教科の関連を図りながら、次第に水色の教科時間が多くなっている。

◆子供達の小学校生活への適応状況を見ながら、教科学習へ移行していることが分かる。

第3週 平成29年4月24日～28日							
	24	25	26	27	28		
	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土) (日)	
学年のねらい	学校めぐりなどの活動を通して、友だちとの関わりを深め、学校の施設や人に愛着を持つことができる。						
行事	参観日の振替休業日	家庭訪問	全校遠足	家庭訪問			
朝	①朝の準備 ②朝読書 ③朝の会 ・さんぽなど、子ども達が慣れ親しんだ歌を歌う。 ・紙芝居や絵本の読み聞かせをする。 ・じゃんけんゲームなどのアイスブレイク						
1	算数 (かずとすうじ) ・大きな声で詩を読む。 ・第1場面：見つけたことを発表 ・なぞり書き	国語 (みんなのせかい) ・大きな声で詩を読む。 ・第2場面：見つけたことを発表 ・なぞり書き	算数 (かずとすうじ) ・大きな声で詩を読む。 ・第3場面：見つけたことを発表 ・なぞり書き	国語 (みんなのせかい) ・大きな声で詩を読む。 ・第4場面：見つけたことを発表 ・なぞり書き	国語 (みんなのせかい) ・大きな声で詩を読む。 ・第5場面：見つけたことを発表 ・なぞり書き		
2	国語 (みんなのせかい) ・大きな声で詩を読む。 ・第1場面：見つけたことを発表 ・なぞり書き	算数 (かずとすうじ) ・大きな声で詩を読む。 ・第2場面：見つけたことを発表 ・なぞり書き	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜	算数 (10までのかず) ・カードを使って、大きな声で発表	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜	算数 (10までのかず) ・カードを使って、大きな声で発表	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜
3	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜
4	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜
5	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜	生活 (せんせいとなかよし) ・育てたことのある野菜 ・育てたい野菜
下校時刻		15:00	15:00	15:00	15:00		
特記事項	【○環境構成 ※支援 ・準備資料等】 ○視覚支援に必要な物を準備しておく。 ○下校グループの確認、印付け。 ○朝、一日のスケジュールを示しておき、帰りは家庭への連絡。 ※教師との一対一の関わりを大切に、一人ずつ言葉かけを丁寧に行う。 ※幼稚園や保育園での体験を生かし、「できる」という気持ちを支えにして、安心感を持って ・学年便りの準備 配布物の確認。 ・保育園で習った手遊びや歌の提示。 ・学校めぐりに向けて校内に呼びかける。 ・家庭訪問の準備。						

※4

小学校における「視覚的カリキュラム」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数	
国語	みんなのせかい ほきはきあいさつ よしのけ じかこう ほんがたせん	あいうえおのうた あめですよ ふたごぶた ともだちはなぞう とんこととん ねことねこ	ことばあそび あひるのあくび ぶんをつくらう おはさんとおはさん きんぎょのうた 「は」のつくり いんまをから	どうやうおまをまらる のかな いしや おんた おんた おんた おんた	あるけあるけ はなはな かんと かんと かんと かんと	サダでけんき かたかなをかこう ほんはともだち わたしのほつけん よう日と日づけを おほえよ	いろいろなふね おん出してかこ 「す」がまのクイ スだしよう	こぼれあそびうた まつくらう おようとねすみチ ロ	みずのたいせう のむか おはねをつくらう おはねをつくらう	「しゃんけんやき んぼらこう まどめでよぶこと ば ・スミー	「かたのこにいてる かん 「おもいでブック」 をつくらう	306		
算数	オリエンテーショ ン かざとすじ	なんぼんめ いっくといくつ	いろいろながた ふたりのつり たしざん(1) ひざん(1)	とみとみ とみとみ とみとみ とみとみ	3つのかずのけ いさん たしざん(2)	かたつくり ひざん(2)	0のたしざん ものどどのかず	大きなかず	とけい(2) いさん おんた	とけい(2) いさん おんた	おぼえいほうすく ないほう おんた(2)	136		
行事・特選	入学式 全校運動	交通安全教室	プール開き 新体カースト	なかよし集会 なかよし集会	前期休業式 後期休業式	前風フレスティバル	なかよし集会 創立記念式	給食週間	なかよし集会 めざまし集会	なかよし集会 めざまし集会	6年生を送る会 卒業式 修了式			
生活	スタートカリキュラム												102	
地域学習の材料	校区探検に出かける 鹿野道コース 大津神社コース	公園に出かける1 玄野野公園 大津神社コース	野菜づくり 野村好子さん、 田中和子さん、 米谷みずほさん、 岡本敦子さん	ちまきづくり 田中和子さん、 米谷みずほさん、 岡本敦子さん、 山内知子さん、 松原照子さん	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく		
音楽	うたでなかせい にならう	「ぼ」をかんじてあ そぼう	「は」をかんじてリズムをうた う	「ど」をかんじてリズムをうた う	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	68	
図工	おひさまにこころ おひさまのな に	「ひも」もゆん ど 「みん」なでせ らう	「しん」もゆん ど 「みん」なでせ らう	「しん」もゆん ど 「みん」なでせ らう	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	68	
体育	「かたは」はく し 「う」はく す 「あ」はく す	「つ」はく す 「ほ」はく す 「お」はく す	「つ」はく す 「ほ」はく す 「お」はく す	「つ」はく す 「ほ」はく す 「お」はく す	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	102
道徳	「たのしい」が こころ 「あひる」は 「すき」な うた 「すき」な うた	「たのしい」が こころ 「あひる」は 「すき」な うた 「すき」な うた	「たのしい」が こころ 「あひる」は 「すき」な うた 「すき」な うた	「たのしい」が こころ 「あひる」は 「すき」な うた 「すき」な うた	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	わたしのわんぱく わんぱく わんぱく わんぱく	34

- ◆ 幼児期に培った力を生かす教育課程や学習展開について検討を重ね、生活科を中心に各教科を関連させた「視覚的カリキュラム」を編成している。
- ◆ この「視覚的カリキュラム」は全学年で編成され、生活科や総合的な学習を核に教科間の関連を図ることで、幼児期から低学年、低学年から中学年以降の教育への円滑な接続をめざすものとなっている。

## 《成果と課題》

### 成果

#### 組織をつなぐ

- ・管理職の幼保小連携推進協議会が総括機能を果たすことで、年度当初の計画に沿って、各部会が主体的に研究や実践を進めている。
- ・鳥取市教育委員会事務局指導主事が指導助言を行い、成果を市内の全園・小学校に普及する取組を実施するなど、行政のリーダーシップのもと鳥取市全域の幼保小連携推進体制整備を行っている。

#### 人をつなぐ

- ・小学校教職員の保育体験や合同研修会、カリキュラム編成等を行い、教職員が園や小学校における子供の姿、就学に向けた情報交換や課題を話し合うなど、気軽に相談し合える関係ができつつある。

#### 教育をつなぐ

- ・カリキュラム編成をすることが、園と小学校の指導がつながり、同じ方向性で実践が行われることにつながる。また、自園・自校でどんな力を定着させる必要があるか、再検討することにつながった。
- ・小学校では、「幼児期に培った学びを生かす」という新たな視点を加えてスタートカリキュラムを改善し、幼児期の体験を生かす学習や活動、園の教職員から学んだ支援や環境構成を積極的に取り入れることが、小学校教育の充実につながっている。

### 課題

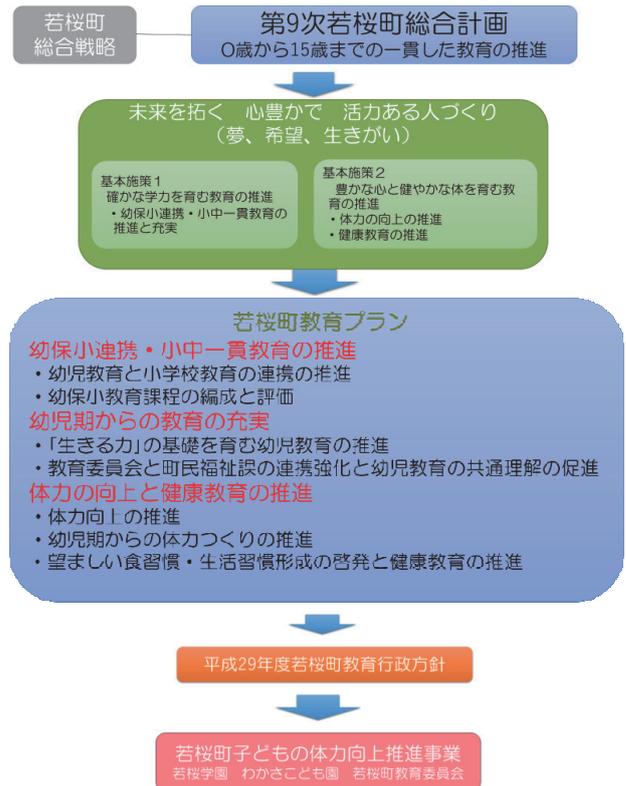
- ・事例を収集・蓄積し、今後の校区の取組改善の指針としていくことが必要である。
- ・取組の継続により、幼稚園教育要領等における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、就学前後に校区内で「育てたい子どもの姿」や「定着させたい力」等について協議し、カリキュラムを改善していく必要がある。
- ・1つの小学校区の実践や推進体制が鳥取市全体（44校）に広がるための取組及び地域の特色を生かした取組が展開されるよう支援を行うことが必要である。

#### (4) 若桜町の事例

##### 【取組の特徴】

鳥取県東部に位置し、人口は約0.31万人である。

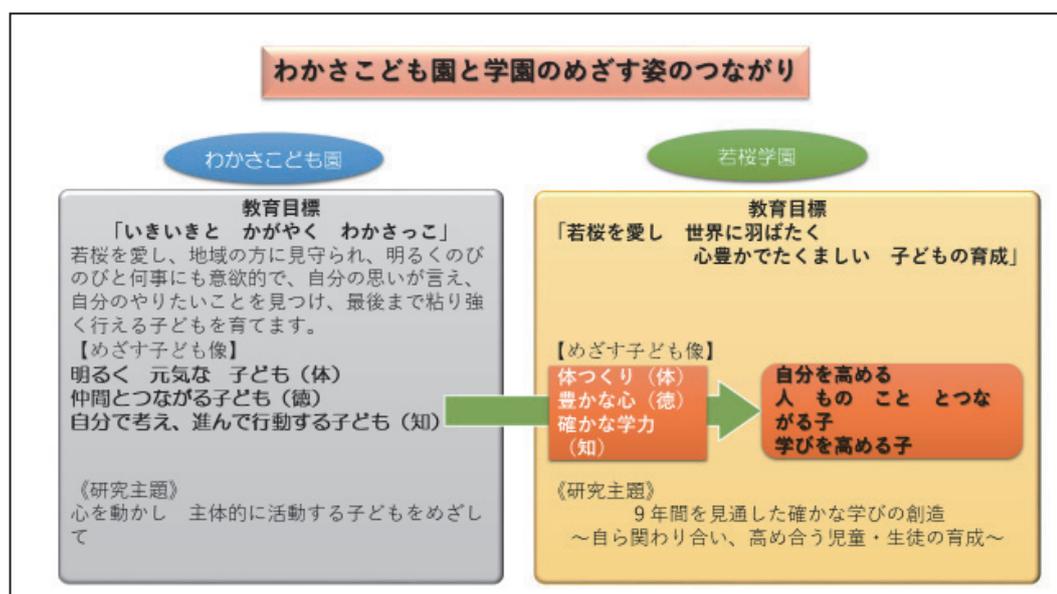
若桜町は、小中一貫校である若桜学園と公立幼保連携型認定こども園であるわかさこども園の1校1園を有している。町の総合戦略及び総合計画に基づき、「幼児期からの教育の充実」と「幼保小連携・小中一貫教育の推進」を教育プランの柱とした上で、0歳から15歳までの一貫した教育の推進を図るため、町民福祉課と町教育委員会とのつながりのもと、町の子供の「体力向上」を重点項目とし幼保小連携の取組を展開している。



#### ○町の重点課題に対する身に付けさせたい力の明確化

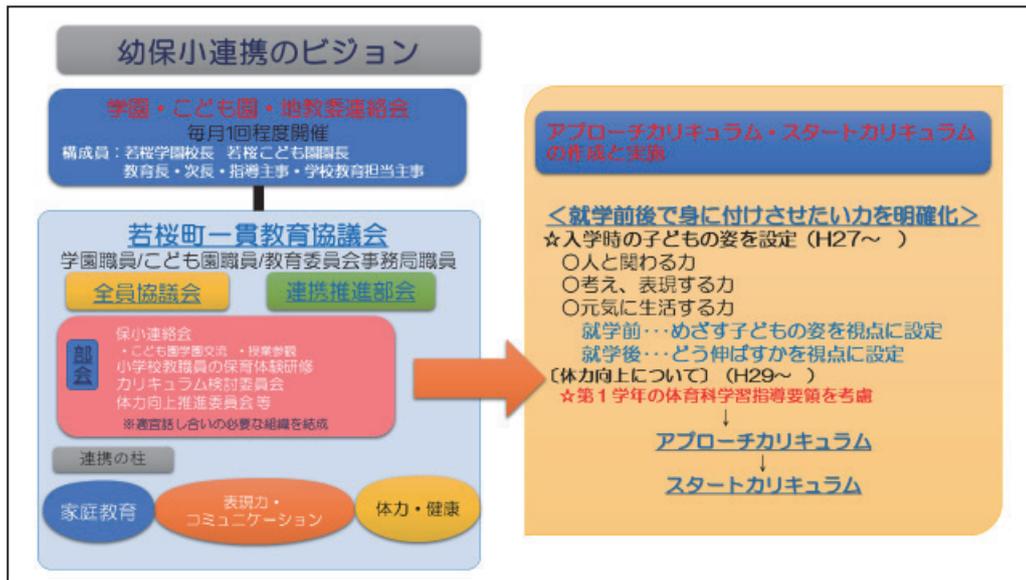
町の総合戦略に基づき、わかさこども園と若桜学園小学校（中学校）がつながり、若桜町の子供を育てるための基盤となるビジョン等の共有を行っている。

#### 園と小学校のめざす姿

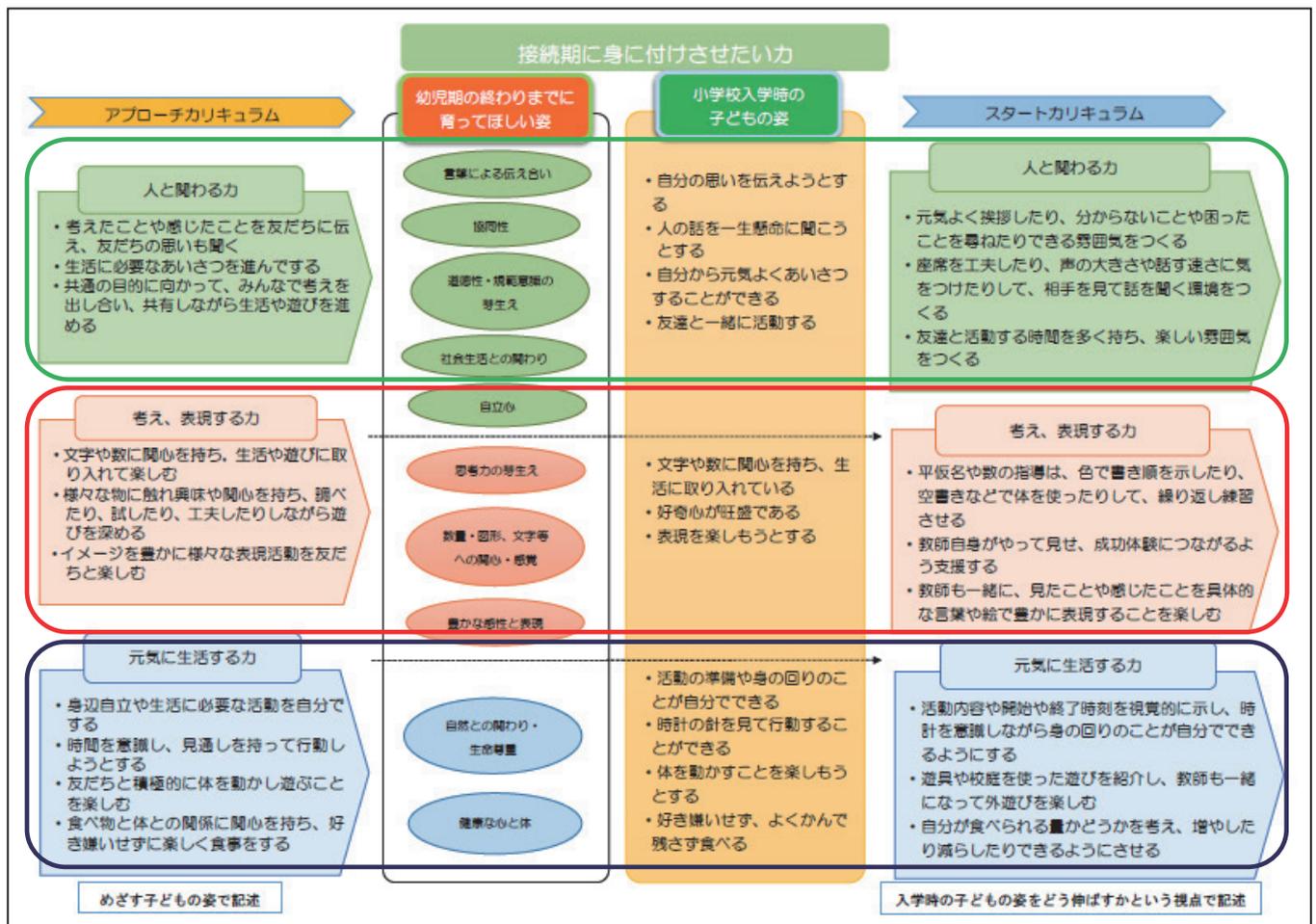


◆わかさこども園と若桜学園の教育目標やめざす子供像について共通理解を図り、つながりを持たせて、一貫した幼保小連携推進に努めている。

## 幼保小連携のビジョン



## 接続期に身に付けさせたい力



- ◆「接続期に身に付けさせたい力」の重点項目（3観点）を位置付けた連続性・一貫性のある取組となっている。
- ◆5歳児後半においては、「接続期に身に付けさせたい力」を「めざす子どもの姿」で記述し、指導計画（長期・短期）に具体的な活動やねらいを記すこととしている。
- ◆小学校1年生においては、「入学時の子どもの姿をどう伸ばすかという視点」で表記し、幼児期の終わりの姿と小学校入学時の子供の姿を共有し、幼児期に培った力を更に伸ばしていこうとしている。
- ◆新幼稚園教育要領に明記された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を関連付けて整理している。
- ◆身に付けさせたい力を共通理解するにあたり、園と小学校の姿を並べて記載している。

### 接続期に身に付けさせたい力の重点項目

	9月→12月	接続期（5才児後半～小学1年生）	1月→3月
人と関わる力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えと相手の考えの違いに気付き、折り合いをつけて遊びを進めようとする。</li> <li>友だちと言葉のやりとりを十分にし、思いを伝え合う。</li> <li>体験したり、感じたりした事を様々な言葉で表現することを楽しむ。</li> <li>友だちとの関わりの中で相手の気持ちに気付き、受け入れる。</li> <li><b>遊びの進め方を友だちと話し合い、協力したり決まりを守ったりして遊びに取り組む。</b></li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の感じた事や考えた事を友だちに分かるように伝えるとともに友だちの話も聞き、受け止める。</li> <li>言葉で伝え合う喜びや仲間と気持ちがつながり合う喜びを味わう。</li> <li>考えた事や感じた事を相手に分かるように話す。また、相手の話の内容を理解し注意して聞く。</li> <li>失敗してもあきらめずに遊びを広げたり深めたりする。</li> <li>クラスやグループの中で役割を持ち目的を持って遊びや生活を進める。</li> <li><b>自分たちで決めたルールに従って、友だちと楽しむ。</b></li> </ul>
考え、表現する力	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びに必要な物を適切な材料を考えて使い、工夫して作ったり飾ったりすることを楽しむ。</li> <li>自然物を使って様々な遊びに取り組み、その感触や特徴などに気付いたり、調べたりする。</li> <li>絵本や物語などに親しみ興味を持って聞き、想像を広げて楽しむ。</li> <li><b>いろいろな運動遊びに進んで取り組む。</b></li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>材料や用具を目的に合わせて選び、のびのびと表現し作品を大切に扱うと共に友だちの表現にも関心を持つ。</li> <li>感じた事、想像したこと、体験した事等を言葉や動き、作品を通して表現する。</li> <li>思った事や感じた事を絵や言葉などで表現する。</li> <li>色々な材料を自分のイメージに合わせて見立て、工夫して使う。</li> <li>身近な環境に自ら関わり考えたり、試したり工夫したりして遊ぶ。</li> <li>日常生活で数量、図形、文字、時間などに関心を持ち生活や遊びの中で使ってみる。</li> <li><b>友だちと運動遊びの行い方がより楽しくなるよう工夫する。</b></li> </ul>
元気に生活する力	<ul style="list-style-type: none"> <li>戸外で、進んで体を動かして遊ぶことを楽しむ。</li> <li>友だちと積極的に体を動かす遊びに取り組み、競い合ったりルールを作ってみんなで遊んだりすることを楽しむ。</li> <li>自分なりの目当てを持ち、全身を使って多様な運動遊びを楽しむ。</li> <li>園生活の流れを予測し、見通しを持って行動しようとする。</li> <li>ルールの必要性や危険なことに気付いて、意識して行動しようとする。</li> <li>食べ物と健康の関係を知り、進んで食べようとする。</li> <li>栽培物を収穫したり調理して食べる喜びを味わう。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>寒さに負けず十分に体を動かし、色々な運動遊びに取り組む。</li> <li>用具の特長を生かして色々な運動遊びを楽しむ。</li> <li>危険な遊び方や場所に気付き、自分で判断して安全に行動しようとする。</li> <li>時間を意識しながら生活に見通しを持ち、場や状況に応じた行動をとる。</li> <li>小学校交流などを通して就学への期待を膨らませ、意欲的に生活をする。</li> <li>生活に必要な挨拶や正しい言葉使いを進んでしようとする。</li> <li>食材や食事を用意してくれる人へ感謝し、命の大切さに気付く。</li> <li>給食時間内に残さず食べる。</li> </ul>

- ◆平成27年度から就学前後に「身に付けさせたい力」の重点項目を3点（人と関わる力、考え・表現する力、元気に生活する力）と設定し、接続期におけるそれぞれの具体的な子供の姿について系統的に記載している。
- ◆町の重点課題である体力向上についても、接続期に身に付けさせたい力や年長児の年間指導計画等の記載について工夫・改善を行っている。（参考資料として添付）

## 《成果と課題》

### 成果

#### 組織をつなぐ 人をつなぐ

- ・町が体制整備した「一貫教育協議会」を中心に、若桜学園とわかさこども園及び教育委員会が同じ方向に向かって共通実践している。
- ・教育委員会がリードして取組を進めたことが体制強化につながった。

#### 教育をつなぐ

- ・園で行っている教育と小学校教育とのつながりのあるカリキュラム編成の実現となっている。

### 課題

- ・体力向上について「接続期に身に付けさせたい力」を年間指導計画に位置付けた（参考資料）ことで具体的なイメージをもつことができたが、体力向上以外の観点においても、カリキュラムへの位置付けを工夫する必要がある。
- ・接続カリキュラムの実践例を蓄積するとともに、現在の教育課程・指導計画を次年度に向けて評価・改善するなど協議の機会が必要である。
- ・特に、小学校において、幼児期の遊びで培った力を把握し、学習に生かす取組、実践事例の蓄積が大切である。

## (5) 湯梨浜町の事例

### 【取組の特徴】

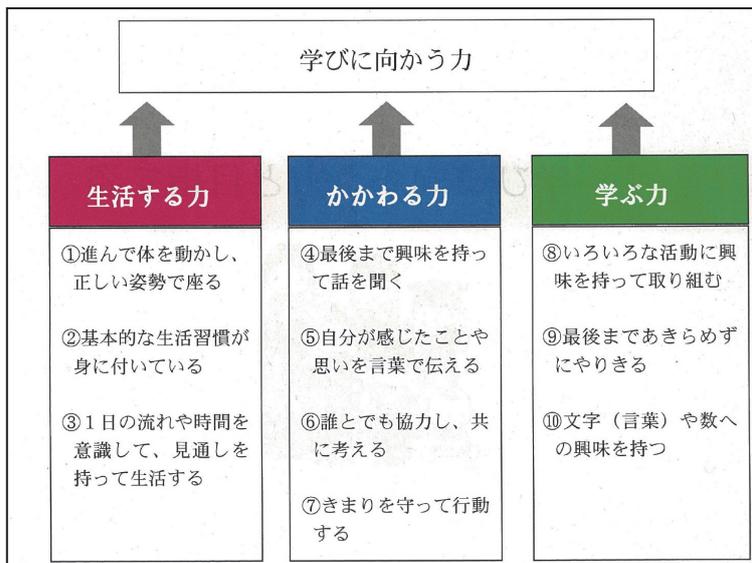
鳥取県中部に位置し、人口は約1.6万人である。

平成24年度に保育所・幼稚園、福祉部局（子育て支援課）、教育委員会（教育総務課）の代表者が集まり、3歳児から5歳児の「就学前教育実践事例集」を作成した。また、平成27年度には、子育て支援課と教育総務課が連携し「第3次湯梨浜町総合計画」を策定するなど、町の連携推進体制が整うことで保育者や教職員のつながりが生まれ、幼保小連携の取組が行われている。平成29年度は、公立幼保連携型認定こども園5園、保育所型認定こども園2園、私立保育所1園及び公立小学校3校を有している。

### ○町の接続カリキュラム（湯梨浜町幼保小連携「学びのカリキュラム」）の編成・配布

編成委員として、小学校管理職及び教職員、認定こども園管理職及び教職員、保育担当課子育て支援員、教育委員会指導主事を任命し、町としての共通実践を行うための冊子「学びのカリキュラム」を編成した。

#### 学びに向かう力



◆学びに向かう力を3つの観点で構成し、接続期には、これらの力をバランスよく育てることを意識する。

＜湯梨浜町学びに向かう力＞

- ・生活する力
- ・かかわる力
- ・学ぶ力

◆観点ごとに下位項目（①～③、④～⑦、⑧～⑩）を設定している。

- ◆共通の理念を示すことでどの園に在籍していても、どの小学校に就学しても一貫性のある教育・保育を保障することにつながる。
- ◆幼児期の教育、小学校教育それぞれの発達段階に応じた学びを理解し、連続性のある教育を行うことができる。
- ◆幼児期に身に付けた力を小学校で発揮し、「できる」「わかる」喜びにつなげるための具体的な実践例、「学びに向かう力」に焦点を絞ったカリキュラムの編成につながっている。

## 学びに向かう力と目指す姿

学びに向かう力	認定こども園卒園時の目指す姿
⑧いろいろな活動に興味を持って取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動植物や自然物に興味関心を持ち、遊びの中に取り入れようとする。</li> <li>・身近な環境に自ら関わり、考えたり試したり工夫したりして遊ぶ。</li> <li>・絵本、物語、歌、楽器、絵画、身体表現などに親しみ、イメージを豊かにして表現する楽しさを味わう。</li> </ul>
⑨最後まであきらめずにやりきる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめてのこと、苦手なこと、難しいことにも繰り返しチャレンジしてがんばる。</li> <li>・様々な遊びの中で自分なりのめあてを持ち、最後まであきらめずに根気強く活動に取り組む。</li> <li>・一定時間(15分程度)気持ちを向けて活動する。</li> <li>・友達と楽しみながら、一緒にやり遂げた満足感や達成感を味わう。</li> </ul>
⑩文字(言葉)や数への興味を持つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で、数や文字(言葉)に興味を持ち、生活に取り入れる。(時計、カレンダー等)</li> <li>・ひらがなのだいたいが読める。</li> <li>・自分の名前が書ける。(筆順を正しく自分の名前を書く)</li> <li>・数唱、計数、概括、抽出ができる。(10まで)</li> <li>・大小、上下、前後、左右、長短、軽重等がわかる。</li> </ul>

- ◆ 3つの観点のうち、「学ぶ力」では、下位項目(「学びに向かう力」⑧～⑩)から具体的実践(次ページ:「アプローチプラン」)へとつながっている。
- ◆ 町の「認定こども園卒園時の目指す姿」を設定し、提示することで、園と小学校が共通イメージをもつことができるようになり、指導の連続性や一貫性の確保につながる。

## 幼児期・小学校期の姿と配慮・工夫

学ぶ力

⑧いろいろな活動に興味を持って取り組む

年 長 児

<めざす姿>

- ・動植物や自然物に興味関心を持ち、遊びの中に取り入れようとする。
- ・身近な環境に自ら関わり、考えたり試したり工夫したりして遊ぶ。
- ・絵本、物語、歌、楽器、絵画、身体表現などに親しみ、イメージを豊かにして表現する楽しさを味わう。

<楽しい学校生活を送るための保育者の配慮・工夫>

- ・生活の中で様々な物に繰り返し触れる機会や、自然を感じるとの体験ができるようにする。
- ・心と体を備かせて、物とじっくり関わり合えることができるような環境を構成する。
- ・子どもたちの気づきや発想を十分に認めたり、共感したりして自信につなげる。
- ・絵本や物語などの読み聞かせや様々な表現活動を通して、その世界のイメージを広げる。

こども園年長

4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
身の回りの植物や小動物と触れ合う			
友達と一緒にいろいろな集団遊びを楽しむ		自分選で遊び方を相談して決める 集団遊びを楽しむ	
絵本や物語などに親しみ、読みかきかせを楽しむ		物語や講話(※)を聞き、想像する楽しさを味わう	
歌、劇、合奏など様々な表現活動を体験する			
歌、リズム遊び、楽器遊びに親しむ		メロディー楽器の演奏を体験する	

※講話(すばなし)とは、本を使わずに覚えている話(昔話など)を語ること。



小学校1年生

<めざす姿>

- ・動植物や自然物に興味関心を持ち、進んで世話をしたり調べたり観察したりしようとする。
- ・身近な環境に積極的に自ら関わり、友達と相談しながら意欲的に学ぼうとする。
- ・いろいろな表現方法を用いて、自分の気持ちや考えを表現しようとする。

<こども園・保育園での経験をいかした指導者の配慮・工夫>

- ・絵本や図鑑など絵や写真の多い読み物を教室内に置き、いつでも読んだり見たりできる環境を整える。
- ・活動のはじめには、園での経験や知っていることを発表する時間をとり、意欲付けを行う。
- ・絵本の読み聞かせや童話など幼児期に親しんだ活動を取り入れ、楽しみながら感想を発表し合ったり、自分の考えを話し合ったりできる時間を設ける。
- ・入学当初は、生活科の「学校探検」などの活動から他教科の学習に関連させるなど、総合的な指導を取り入れる。

小学校

4月	5月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な植物や小動物の成長に興味をもって世話をする。</li> <li>・先生や友達と話したり質問したりして伝え合う。</li> <li>・想像を膨らませ、楽しく絵を描いたり作りたいものを作ったりする。</li> <li>・声の大きさや速さ、姿勢や口形に注意して、相手に伝わるように話す。</li> </ul>	

- ◆ 見開きで左側に5歳児のめざす姿や保育者の配慮・工夫、右側に関連する小学校1年生のめざす姿等を提示し、幼保小のつながりが見えるように工夫している。
- ◆ 接続期を5歳児の1年間、小学校1年生の4・5月と設定し、時系列でその時期に重点的に取り組む内容等を記載することで、年長児と小学校1年生のつながりが見え、誰が担任しても実践できるものとなっている。

## アプローチプログラムプラン

学ぶ力	⑧いろいろな活動に興味を持って取り組む ⑩文字（言葉）や数への興味を持つ	
活動名	お店屋さんごっこをしよう	
めざす姿	身近な環境に自らかかわり、考えたり試したり工夫したりして遊ぶ。 友達と言葉のやりとりを楽しみながら、数や文字に関心を持つ。	
	主な活動と予想される子どもの姿○	環境構成★と保育者の援助■
	<p>1 お店屋さんについての話し合う。</p> <p>○興味を持って先生の話聞いている。</p> <p>○どんなお店があるか、どんな品物売ったらよいか自分の考えを出し合う。</p> <p>○数件のお店を話し合って決める。</p> <p>2 お店をつくる準備をする。</p> <p>○お店屋さんごっこに必要な準備品を考えて、発表し合う。</p> <p>（お店の看板、売る品物、お金、財布、エコバックなど）</p> <p>○必要なものをつくる。</p> <p>※クラスの状況に応じて、みんなで同じものを作ったり、チームで分かれて作ったりしていく。</p> <p>3 役割を決め、お店屋さんごっこを楽しむ。（お客さん・お店の人）</p> <p>○チームで分かれ、交代しながらそれぞれの役割を楽しむ。</p>  <p>※応用として、お店をレストランにしてメニューや料理を考えてもよい。</p> <p>※視点を変えた遊びとして、指示カードを準備し、その内容に応じて自分で考えながら買い物を楽しむ方法もある。（ゲーム形式）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">たまご 5こ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">りんご2こ</div> </div>	<p>★ホワイトボードなど書き込みが出来る場所の近くに集合する。</p> <p>■お店屋さんごっこのイメージがわかるように、身の回りにどんなお店があるのかを子ども達に尋ねる。</p> <p>■日常の中で経験していることを、自分達の遊びに取り入れることができるよう必要なものを子どもと一緒に考えていく。</p> <p>■子どもの発想を認めながら、必要なものを作り、準備がスムーズに進むような援助を行う。</p> <p>★子どもの要求に応えられるよう様々な素材のものを準備しておく。</p> <p>★制作時にも文字や数量に意識が持てるように、ひらがなや数の表を掲示しておく。</p> <p>■事前に交代する順番を決めるように促したり、時間の目安を知らせたりして、活動に見通しが持てるようにする。</p> <p>★それぞれの役割分担がわかるように身に付ける物を準備する。</p> <p>★遊びの振り返りをしながら、困った点やもっとこうしたら良いなどの思いを出し合える場面をつくる。</p> <p>※ゲーム形式でカードをめくり、書かれている個数の品物をカゴに入れて次の人に交代するなどの発展も楽しめる。</p> <p>※1日だけの活動ではなく、数日間にわたり計画的に取り組む。</p>
つなぐ視点 小学校へ	自分の役割に応じた言葉のやりとりや行動のスキルを学び、自分のことだけでなく、友達と協力したり考えを出し合ったりすることで遊びがスムーズに進むことを知らせていく。 看板やお金、メニューなど文字や数字に自然とかかわれるようにしたり、個数、多い、少ないなどに気づいたりできるように、保育者自身が意識しながら取り組んでいく。	

◆「アプローチプログラムプラン」として年長児の具体的な実践をモデル掲載し、地域や園の実態に応じて工夫改善できるように提示している。

◆小学校の学習につながる「学びの芽生え」を意識しながら活動が展開できるように「小学校へつなぐ視点」を明記している。

## 《成果と課題》

### 成果

組織をつなぐ 人をつなぐ

- ・福祉部局と教育委員会が連携して幼保小の連携を推進したり、カリキュラム作成委員等を選考したりする等、行政のリーダーシップのもと連携推進体制整備が進んだ。

教育をつなぐ

- ・町として、「卒園時の目指す姿」を設定（平成28年度時点）することで、園と小学校が共通イメージをもち、連続した指導をすることにつながっている。

### 課題

- ・具体的な実践例が「アプローチプログラムプラン」のみとなっており、小学校の「スタートプログラムプラン」の作成・提示・実践が必要である。
- ・提示されたプランを自園・自校の特色や実態に応じて工夫改善して取り組んでいるが、その好事例を収集・蓄積するとともに改善していくことが必要である。
- ・新幼稚園教育要領、新幼保連携型認定こども園教育・保育要領等における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用しながら、町としての「めざす子供の姿」や「育てたい力」等について協議し、新たな「学びのカリキュラム」へ改訂する時期となっている。

### 第三章 研究の成果と今後の課題

#### (1) 研究の成果

本県において分析した結果、円滑な幼保小接続の実施及び接続カリキュラムの編成等に関して、効果的だと思われることを、以下「幼保小連携・接続に向けた自治体の取組」と「接続カリキュラムの編成」の2点に絞って記す。

#### 幼保小連携・接続に向けた自治体の取組

○各自治体の教育大綱、教育振興基本計画等に幼児教育の振興や幼保小連携・接続に関する内容を教育の柱に位置付けること

各自治体における教育大綱、教育振興基本計画等において、幼児期の教育に関する項目や自治体におけるめざす子供の姿が明記されていない市町村もある。域内に幼稚園が設置されておらず、保育所のみ設置している自治体の場合や教育委員会の策定する教育振興基本計画が、小学校以降の教育に言及されている場合である。保育所の所管を教育委員会に移管することにより、自治体としての教育大綱や教育振興基本計画等への幼児期の教育や幼保小連携の位置付けが行われ、幼保小連携推進の体制整備等が強固なものになる場合もあった。

○教育委員会が主体となって、幼保小連携・接続の体制整備をすること

各小・中学校区における幼保小連携・接続に関しては、小・中学校側の校内連携推進担当の位置付けや教職員の意識改革が必要になってくる。そのためには、各自治体の教育委員会のリーダーシップが必要であり、教育委員会が福祉部局とのつながりを持ち、各小学校区または中学校区全体の連携・接続体制を整えていく必要がある。事例の中では、「幼児教育研究会」「保小・小小連携推進部会」「一貫教育協議会」等名称は様々であるが、園（所）長、校長、行政担当者（教育委員会、保育担当課）が一同に会して協議を行う等、教育委員会が中心となり、体制整備をし、組織をつないでいくことが重要である。

○各自治体の「めざす子供の姿」や「育てたい力」等が明確であり、重視したい項目等が明示してあること

収集した事例においては、各市町村における「めざす子供の姿」を大項目（キーワード）として柱立てをし、子供の育っていく過程・発達段階等を系統的に表し、誰でもとらえやすくすることで、自治体全体の共通実践へとつながる例が多かった。本県においては、「鳥取県幼保小連携カリキュラム」（平成26年3月作成）に3つの観点「生活（健康な体づくり）」「人とのかかわり（豊かな人間性づくり）」「興味・関心（学びの基礎づくり）」及びより詳細な下位項目として11の視点を示している。それを基にして、地域の実態に即して工夫改善され、その観点・視点が県内市町村の「めざす子供の姿」や接続カリキュラムに位置付いている例もある。

視点を明らかにしたカリキュラム編成を自治体が支援すること、またそのための協議が互いの教育内容の理解や教育・保育の改善や充実につながる。

○各自治体が主体となって、接続カリキュラムを編成し、周知すること

各自治体が幼保小連携推進に向けた施策や事業を行い、幼保小の教職員が一同に会する研修会を開催したり、接続カリキュラムを編成し、各園・各小学校での実践事例を作成したりすることが重要である。また、その成果をリーフレットやパンフレット、冊子等で紹介することが、自治体にお

いては効果的である。各園・小学校においては、その成果物を活用・参考にしながら、無理なくできる連携、小学校区の課題に応じた連携、小学校区の特色ある連携・接続へと発展することとなる。

第Ⅱ章で取り上げた県内外の事例においても、県が示した「鳥取県幼保小連携カリキュラム」等の冊子を活用したり、県実施の「幼保小連携推進モデル事業」等の機会をとらえ体制整備したりする中で、各市町村の実態に応じた特色ある接続カリキュラムが編成されている。自治体が主体となって編成した接続カリキュラムは、自治体の特色や抱える課題や地域、子供等の実態を反映させているため、各小学校区等で実践しやすい内容となる。接続カリキュラム編成を通して、組織的に幼保小をつなぎ、それぞれの教育課程・保育課程を評価・改善する中で、子供の学びや生活の連続性を確保し、各地域・園・小学校の特色ある実践へと深化・発展することが分かった。

### **接続カリキュラムの編成**

#### ○各自治体における幼保小連携に係る観点が明確であること

自治体独自の「めざす子供の姿」や「育てたい力」が明確に示されていることで、自治体全体として共通・一貫した教育を行うことができる。めざす姿が示されることで、接続期だけでなく、乳幼児期から児童期までを見通して子供の姿を確認でき、目の前の子供だけではなく、乳幼児期・低学年から中学年・高学年等長い目で子供の成長の過程を見通した教育活動を実践することにつながる。

#### ○小学校区等においては、管理職のリーダーシップのもと、組織的に幼保小連携推進及び接続カリキュラム編成等を行うこと

校内・園内に連携推進担当を位置付けたり、円滑な接続に向けた取組を推進するためには、管理職のリーダーシップによるところが大きい。組織・体制を整備し、連携推進担当者の計画的な会議や5歳児担当や小学校1年生担任等によるカリキュラム編成会議等を行い、園と小学校の教育内容をすりあわせた接続カリキュラム編成を行うことが重要である。それが、各小学校区等の実践の深化・充実につながる。

#### ○アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの双方に、自治体または小学校区等で決めた柱立て（観点、視点等）が位置付けられ、子供の育ちや学びのつながりが見えること

園と小学校の管理職同士の連絡協議会や連携推進担当者等の会議、職員合同研修会等で協議された「育てたい子供の姿」などを双方のカリキュラムに位置付けることで、小学校区の子供を一緒に育てるという意識の高まりが見られ、共通実践を行うことにつながる。

カリキュラムにおいては、年長児・小学1年生を見開きで表したり、項目ごとに年長児から小学1年生の姿へのつながりが見えるように作成したりする等、連携推進担当者だけでなく、担任、担当等の実践につながる互惠性のあるものとなっていく。

また、相互のねらいを明確にした指導計画を作成しておくことで、実際の園児と小学生の交流活動の際にも、双方の子供や教職員にとって互惠性のある活動となり、交流後の小学校や園での学習や遊びにつながる連続性のある活動へと発展していくこととなる。

### ○地域や校区の実態・特色のある接続カリキュラムにすること

接続カリキュラムの中に、交流連携計画で示した園児と児童の交流活動及び環境構成の工夫、援助や支援の工夫、家庭との連携等を項目として挙げておくと、地域の実態をとらえた実効性のあるカリキュラムとなる。

しかし、カリキュラムを編成することを目的とするのではなく、編成過程の保育・授業の参観・体験や協議の中で、お互いの教育内容について理解を深め、互いの教育の良さを自校・自園の教育につなげ、生かしていくことが大切である。

## (2) 今後の課題

### ○各自治体等の実態・課題に応じた対応・施策

各自治体における幼保小連携・接続に対する取組には差がある。それぞれの自治体の規模、人口や主管課のちがひ、施設の割合や数、小学校の設置数等によるところが大きい。それぞれの自治体の課題や実態に対応する幼保小連携推進に関する施策や事業を実施し、幼児教育と小学校教育のさらなる連携推進を図っていくことが自治体に求められている。

### ○幼稚園教育要領等、小学校学習指導要領に提起された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等と関連させ、各自治体の「めざす子供の姿」や「育てたい力」について再検討すること

「教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出すカリキュラム・マネジメントの実現」や「主体的・対話的で深い学びの実現」、「幼稚園教育において育みたい資質・能力」等が明確に示されるとともに、幼稚園教育要領等において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を小学校と共有することによる幼保小接続を推進することが示された。これにより、各自治体や小学校区においては、幼児期の教育において育まれた資質・能力を踏まえ、教職員の意見交換や合同の研究の機会などを設け、円滑な接続を図るよう努めることが求められている。

接続カリキュラムを編成する際には、この「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとにしながら、各自治体の「めざす子供の姿」等について再検討し、改善することが大切である。

### ○接続カリキュラムを各園及び各小学校等の教育課程としてとらえ、組織的にカリキュラム・マネジメントを確立するものにしていくこと

接続カリキュラムが編成したままで具体的に評価・改善の段階に至っていない自治体や小学校区もある。編成したものを活用して実践したり、接続カリキュラム検討委員会等の組織で改善を図ったりする等、カリキュラム・マネジメントとして発展させることが求められている。

### ○接続カリキュラムの実践事例の作成・蓄積

編成された接続カリキュラムを実施・評価・改善していくためには、その実施内容を実践事例として残し、蓄積していくことが大切である。また、その事例を小学校区の全教職員で共有し、カリキュラムの改善へとつなげていくことが、実効性が高く、持続可能なカリキュラムの実現につながる。接続カリキュラムが担任や連携推進担当者だけのものになっている場合もあり、全教職員で事例を検討したり、カリキュラムの改善に取り組んだりすることが、幼児期の教育と児童期の教育の違いや連続性・一貫性を理解した上で、自校園の教育の深化・充実に寄与することとなる。



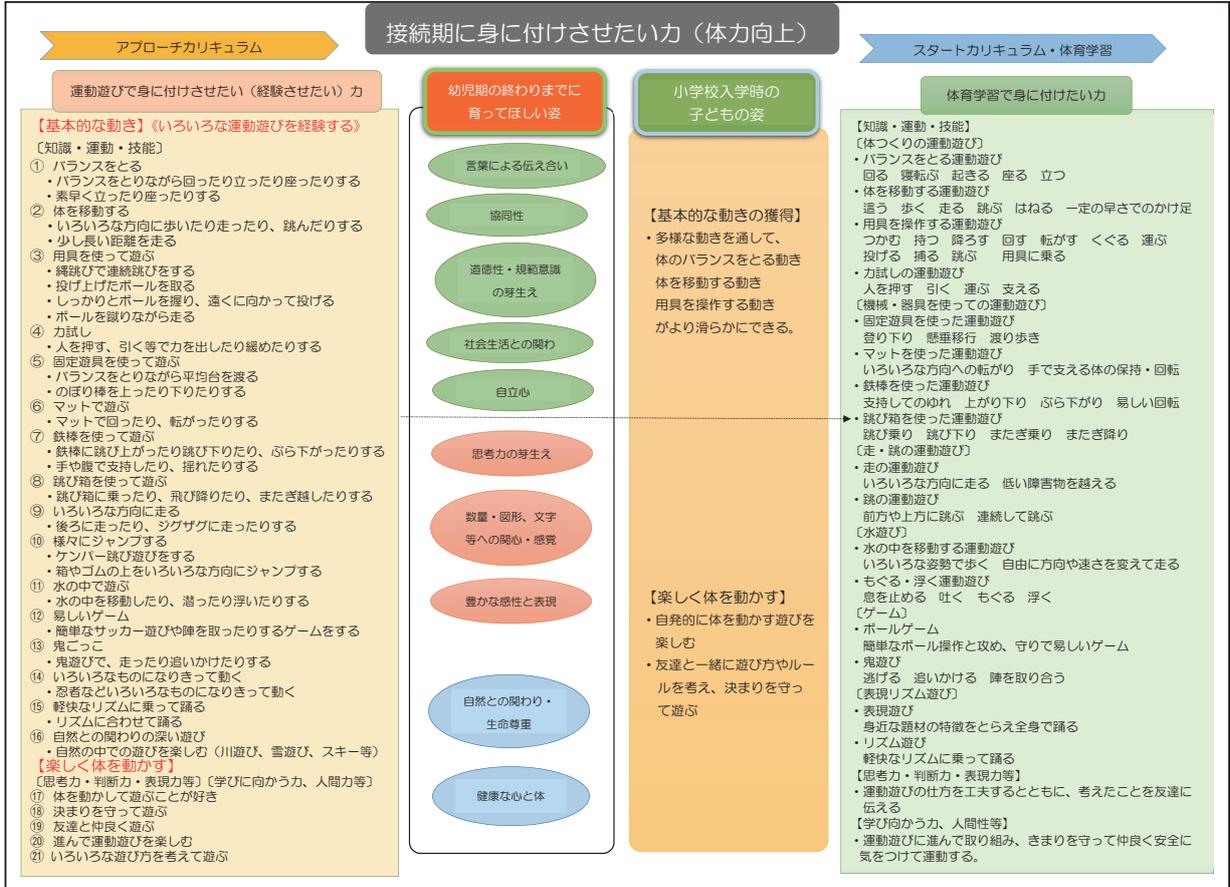
## 参考資料



鳥取県若桜町の実践

町の重点課題である体力向上に関して作成している計画等を以下に示す。

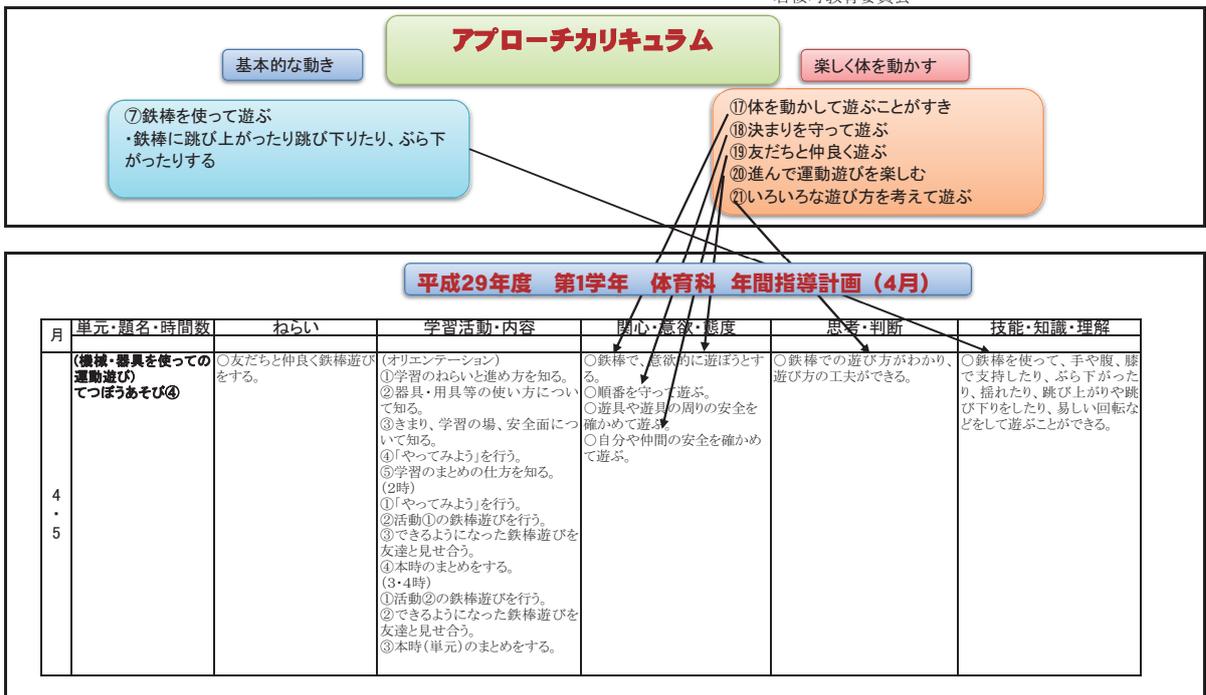
○重点課題（体力向上）に関する身に付けさせたい力の明確化



○アプローチカリキュラムで身に付けさせたい力と第1学年体育科学習指導計画（4月）とのつながり

アプローチカリキュラムで身に付けさせたい力とスタート時の第1学年体育科年間指導計画とのつながり

若桜町教育委員会





**【鳥取県幼児期の教育内容等深化・充実調査研究実行委員会】**

鳥根大学教職大学院	教授	肥後 功一	◎委員長
鳥取市教育委員会事務局学校教育課	主幹兼指導主事	中村 礼子	
鳥取市福祉保健部子ども家庭課	係長	西川 美佐絵	
倉吉市教育委員会事務局学校教育課	指導主事	福田 早由里	
若桜町教育委員会事務局	参事兼指導主事	岡崎 浩一	
日野町教育委員会事務局教育課	課長兼指導主事	砂流 誠吾	
倉吉市立西郷保育園	園長	泉 孝子	
認定こども園倉吉幼稚園	副園長	日野 彰則	
若桜町立わかさこども園	園長	矢部 紀子	
日野町立根雨小学校	教諭	柴田 年美	

**【鳥取県幼保小連携推進モデル事業（平成28・29年度）】**

- ・モデル事業アドバイザー

鳥根大学教職大学院 教授 肥後 功一

《平成28・29年度実施》

- ・鳥取市教育委員会 ・倉吉市教育委員会 ・日野町教育委員会

《平成28年度実施》

《平成29年度実施》

- ・境港市教育委員会

- ・若桜町教育委員会

**【県外視察先】**

- ・埼玉県草加市教育委員会
- ・栃木県幼児教育センター
- ・滋賀県教育委員会
- ・滋賀大学附属幼稚園

**【事例提供の鳥取県内の市町村】**

- ・倉吉市 ・日野町 ・鳥取市 ・若桜町 ・湯梨浜町

**【学識経験者】**

- ・名古屋学芸大学ヒューマンケア学部 教授 津金 美智子
- ・鳥根大学教職大学院 教授 肥後 功一

## おわりに

本調査研究では、「鳥取県幼保小連携推進モデル事業」実施市町村の取組や県内事例、先進地事例の収集・分析を通して、幼保小の円滑な接続の効果的な取組をまとめました。

研究の成果を県内に普及することを通して、幼児期の教育と小学校教育を確実につなぐための地域の特色を生かしたさらなる取組の推進が必要です。そこで、平成30年度は、「鳥取県幼保小連携推進事業」により、地域の課題に対応した円滑な接続を推進するため取組を推進することとしています。

子供の育ちと学びをつなぎ、子供達が自ら豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるための基礎を培うため、県内市町村及び園・小学校と一体となった取組を推進してまいります。

鳥取県幼児教育センター

(鳥取県教育委員会事務局小中学校課 幼児教育担当)

〒680-8570 鳥取市東町一丁目271番地

電話 0857-26-7915

平成30年3月